

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成26年6月30日

【事業年度】 第57期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

【会社名】 株式会社ヤマウ

【英訳名】 YAMAU CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中村 健一郎

【本店の所在の場所】 福岡市早良区東入部五丁目15番7号

【電話番号】 092(872)3301(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 隈江 芳博

【最寄りの連絡場所】 福岡市早良区東入部五丁目15番7号

【電話番号】 092(872)3301(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 隈江 芳博

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高 (千円)	14,859,738	13,541,843	13,191,739	16,923,641	22,932,951
経常利益 (千円)	721,931	386,602	194,652	382,649	1,479,540
当期純利益 (千円)	286,385	258,586	133,097	332,984	856,053
包括利益 (千円)		272,151	145,024	373,650	901,110
純資産額 (千円)	1,683,128	1,935,939	2,050,748	2,403,653	3,381,605
総資産額 (千円)	10,545,258	9,931,326	10,177,046	13,315,793	16,648,742
1株当たり純資産額 (円)	230.89	285.90	312.58	389.58	600.50
1株当たり当期純利益 (円)	60.86	54.82	26.97	71.49	187.74
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	27.27	30.41	15.65	39.16	100.69
自己資本比率 (%)	15.67	19.12	19.84	17.76	19.91
自己資本利益率 (%)	19.01	14.56	6.79	15.19	30.15
株価収益率 (倍)	1.79	1.92	3.89	2.85	2.56
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	836,182	785,469	582,705	799,853	1,314,311
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	169,638	265,489	344,586	280,351	481,384
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	421,694	362,723	203,923	756,707	483,966
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	950,294	1,107,550	1,141,745	1,465,242	1,814,202
従業員数 (名)	567	545	546	679	683

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員を表示しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月
売上高 (千円)	12,470,910	11,308,890	11,064,315	11,846,609	15,838,826
経常利益 (千円)	576,443	357,702	152,217	263,567	727,728
当期純利益 (千円)	253,873	269,875	123,517	191,003	479,107
資本金 (千円)	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000
発行済株式総数 (株)	普通株式 5,506,000 優先株式 2,000,000	普通株式 5,506,000 優先株式 2,000,000	普通株式 5,506,000 優先株式 2,000,000	普通株式 5,506,000 優先株式 2,000,000	普通株式 5,506,000 優先株式 2,000,000
純資産額 (千円)	1,592,911	1,842,782	1,950,986	2,146,453	2,619,791
総資産額 (千円)	8,986,876	8,405,198	8,651,404	8,871,262	10,766,013
1株当たり純資産額 (円)	217.75	273.38	297.42	341.01	446.28
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	普通株式2.000 優先株式6.147 (普通株式 ) (優先株式 )	普通株式2.000 優先株式5.850 (普通株式 ) (優先株式 )	普通株式2.000 優先株式5.823 (普通株式 ) (優先株式 )	普通株式3.000 優先株式5.547 (普通株式 ) (優先株式 )	普通株式6.000 優先株式5.415 (普通株式 ) (優先株式 )
1株当たり当期純利益 (円)	53.64	57.33	24.84	39.96	104.01
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	24.17	31.74	14.53	22.46	56.35
自己資本比率 (%)	17.72	21.92	22.55	24.20	24.33
自己資本利益率 (%)	17.29	15.71	6.51	9.32	20.10
株価収益率 (倍)	2.03	1.83	4.23	5.11	4.61
配当性向 (%)	3.7	3.5	8.1	7.5	5.8
従業員数 (名)	240	233	236	239	232

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員を表示しております。

3 平成26年3月期の1株当たり配当額6円には、特別配当3円を含んでおります。

2 【沿革】

年月	概要
昭和43年2月	(有)ヤマウセメント工業をヤマウセメント製品工業(株)に組織変更。 工場：福岡工場
昭和44年11月	宮崎県東諸県郡（現宮崎県宮崎市）に宮崎工場を新設、小型の道路用・農業土木用コンクリート二次製品の製造開始。
昭和45年5月	福岡県福岡市にヤマウ総合開発(株)を設立、コンクリート二次製品の開発、設計施工及び管理を行う。
昭和48年9月	宮崎県北諸県郡（現宮崎県都城市）に高崎工場を新設、大型の道路用・農業土木用コンクリート二次製品の製造開始。
昭和49年9月	ヤマウ相知プレコン(株)、ヤマウプレコン(株)を吸収合併し、商号を(株)ヤマウと変更。 工場：佐賀第一工場(昭和59年4月 建材佐賀工場に名称変更)、鹿児島工場
昭和51年9月	福岡県福岡市にヤマウ商事(株)を設立、土木・建築関連資材の販売開始。
昭和54年8月	一般建設業の大臣許可取得。
昭和55年1月	旭コンクリート工業(株)を買収し、子会社とする。 工場：川南工場、北九州工場
昭和55年8月	鹿児島県始良郡（現鹿児島県霧島市）に建材鹿児島工場を新設、景観関連製品の製造開始。
昭和55年11月	宮崎県児湯郡にレジコン工場(現川南工場に統合)を新設、レジンコンクリート製品の製造開始。
昭和56年10月	大分県大野郡（現大分県臼杵市）に大分工場、佐賀県神埼郡（現佐賀県佐賀市）に佐賀第二工場(現佐賀工場)を新設、道路用・農業土木用コンクリート二次製品の製造開始。
昭和60年10月	ヤマウ総合開発(株)を買収し、子会社とする。
昭和62年4月	本州進出を図るため、東京営業所、大阪営業所を新設。
平成2年6月	静岡県磐田郡に浜松工場を新設、景観関連製品の製造開始。
平成4年4月	旭コンクリート工業(株)、ヤマウ商事(株)、ヤマウ総合開発(株)を吸収合併。
平成5年11月	岡山県阿哲郡に岡山工場、福島県いわき市にいわき工場を新設、景観関連製品の製造開始。
平成7年10月	日本証券業協会に店頭売買有価証券として登録。
平成13年11月	福岡県福岡市(早良区)に社屋を新設し、本社を移転。
平成15年5月	事業再構築の一環として本州事業より全面撤退。
平成15年11月	(株)アサヒメッシュ産業と合併で(有)ヤマウ・アサヒを設立。
平成16年6月	当社のコンクリート二次製品の製造業務請負子会社である(有)ヤマウトラスト（現(株)ヤマウトラスト）を設立。
平成16年12月	ジャスダック証券取引所創設に伴い、同取引所に株式を上場。
平成17年4月	当社のコンクリート二次製品の製造業務請負子会社である(有)ネオトラストを設立。
平成18年6月	新規事業取り組みとして(株)ピオ及び(株)ピオテックを設立。
平成18年8月	(株)九コンとの業務提携に伴い九コン販売(株)を設立。
平成19年4月	(株)ヤマウトラストと(有)ネオトラストが、(株)ヤマウトラストを存続会社として合併。
平成19年6月	新規事業取り組みとしてメック(株)を設立。
平成19年9月	コンクリート製品用型枠の製造・販売を行うためクリエイティブ・モールド(株)を設立。
平成20年1月	光洋システム機器(株)を買収し、子会社とする。
平成21年1月	大分フジ(株)を買収し、子会社とする。
平成21年3月	(株)ピオ及び(株)ピオテックの保有株式の全部を売却。
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所（JASDAQ市場）に上場。
平成22年10月	宮崎プレコン(株)を設立し、子会社とする。
平成22年10月	大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NE市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）に株式を上場。

年月	概要
平成24年4月	開成工業(株)を買収し、子会社とする。
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場統合に伴い、東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) に株式を上場。
平成25年12月	(株)リペアエンジを設立し、子会社とする。

### 3 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社ヤマウ）及び連結子会社10社（有限会社ヤマウ・アサヒ、株式会社ヤマウトラスト、九コン販売株式会社、メック株式会社、クリエイティブ・モールド株式会社、光洋システム機器株式会社、大分フジ株式会社、宮崎プレコン株式会社、開成工業株式会社、株式会社リペアエンジ）で構成されており、土木製品、景観製品、レジンコンクリート製品から構成されるコンクリート製品製造・販売を主な事業内容とし、更に水門・堰の製造及び施工並びに保守事業、情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業、コンクリート構造物の点検・調査事業に取り組んでおります。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は次のとおりであります。なお、セグメントと同一の区分であります。

#### （コンクリート製品製造・販売事業）

土木製品、景観製品、レジンコンクリート製品から構成されるコンクリート製品の製造・販売を行っております。なお、その主要な製品は次のとおりであります。

- |                 |   |
|-----------------|---|
| (1) 土木製品        | 河川製品類、擁壁類、L型擁壁類、カルバート類、管渠・暗渠類、側溝類、道路製品類、水路類、残存型枠・シートライニング、機能性コンクリート、ダム関連製品、貯留システム及びシントー製品 |
| (2) 景観製品        | 舗装材、ストリートファニチャー   |
| (3) レジンコンクリート製品 | YRG集水蓋(U型用蓋・側溝蓋)、カーストップ、メンテナンス床板(UPC階段)、fitサークル、フリーボーイ、誘導ブロック、係船柱、レジン多孔管、分岐部側板、レジンパネル 他   |

（主な関係会社）当社、(有)ヤマウ・アサヒ、(株)ヤマウトラスト、九コン販売(株)、クリエイティブ・モールド(株)、大分フジ(株)、宮崎プレコン(株)

#### （水門・堰の製造及び施工並びに保守事業）

主に水門、除塵機、水管橋等鋼構造物の製造、施工並びにそれらの保守を行っております。

（主な関係会社）開成工業(株)

#### （情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業）

主に金融機関向け業務処理支援機器、貨幣処理機及びその周辺機器の販売並びにそれらの保守、LED照明の販売を行っております。

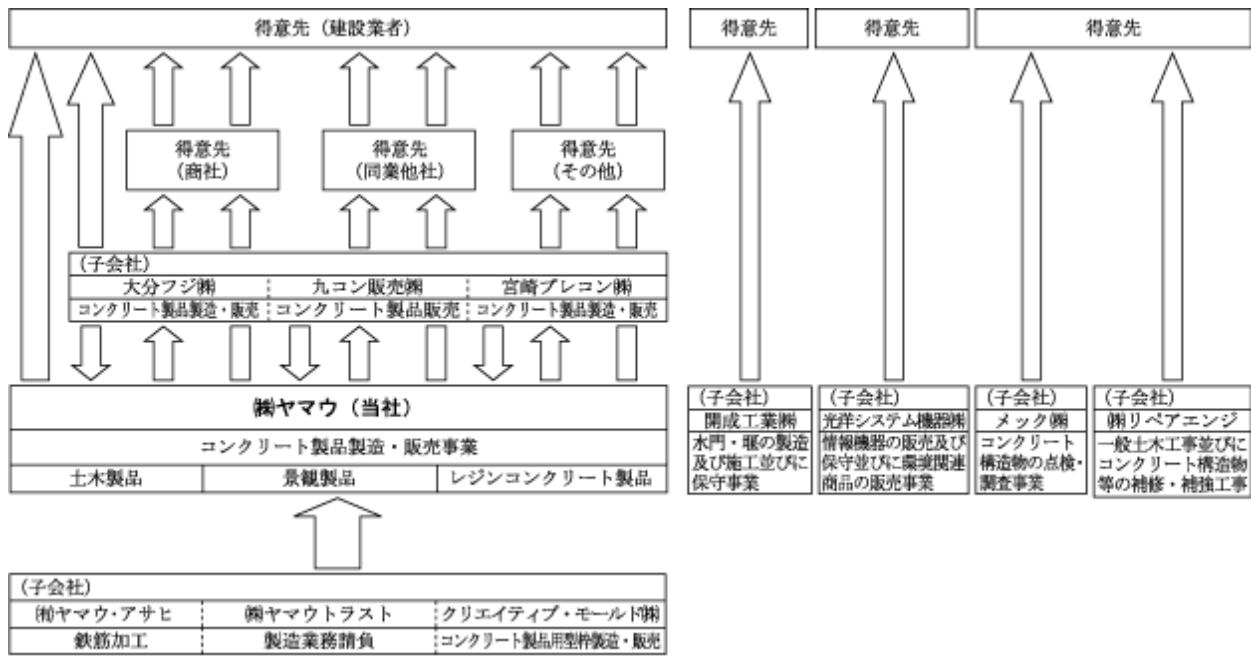
（主な関係会社）光洋システム機器(株)

#### （コンクリート構造物の点検・調査事業）

主に橋梁、トンネル等コンクリート構造物の点検・調査請負、補修・補強設計業務の請負を行っております。

（主な関係会社）メック(株)、(株)リペアエンジ

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 有限会社ヤマウ・アサヒ	福岡市早良区	5,000	コンクリート 製品製造・販 売事業	60.0	当社が製造するコンクリート 製品に使用する鉄筋の加工を 行っております。 当社より工場敷地の一部の貸 与を受けております。
株式会社ヤマウトラスト	福岡市早良区	9,000	コンクリート 製品製造・販 売事業	100.0	当社が製造するコンクリート 製品の製造業務の請負を行っ ております。 当社より本社事務所の一部の 貸与を受けております。 役員の兼任 4名
九コン販売株式会社	福岡市早良区	11,000	コンクリート 製品製造・販 売事業	95.6 〔6.7〕	当社より商品を仕入れており ます。 役員の兼任 3名
メック株式会社	福岡市南区	9,000	コンクリート 構造物の点 検・調査事業	55.6	役員の兼任 1名
クリエイティブ・モールド 株式会社	福岡市早良区	8,000	コンクリート 製品製造・販 売事業	100.0	当社が使用するコンクリート 製品製造用型枠の製作・改 造・修理を行っております。
光洋システム機器株式会社	福岡県春日市	17,050	情報機器の販 売及び保守並 びに環境関連 商品の販売事 業	100.0	役員の兼任 2名
大分フジ株式会社	大分県大分市	9,000	コンクリート 製品製造・販 売事業	77.8	当社より商品を仕入れており ます。 役員の兼任 1名
宮崎プレコン株式会社	宮崎県宮崎市	6,000	コンクリート 製品製造・販 売事業	66.7	当社へ製品を販売しておりま す。 当社が資金を貸付けておりま す。 当社より工場事務所及び土 地、機械設備の一部の貸与を 受けております。
開成工業株式会社	熊本市北区	60,000	水門・堰の製 造及び施工並 びに保守事業	100.0	役員の兼任 2名
株式会社リペアエンジ	福岡市早良区	30,000	コンクリート 構造物の点 検・調査事業	100.0	当社より本社事務所の一部の 貸与を受けております。 役員の兼任 1名

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。  
2 「議決権の所有割合」欄の〔内書〕は間接所有であります。  
3 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。  
4 有限会社ヤマウ・アサヒ並びに開成工業株式会社は特定子会社であります。  
5 開成工業株式会社については、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	4,583百万円
	経常利益	600百万円
	当期純利益	287百万円
	純資産額	900百万円
	総資産額	4,567百万円



## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成26年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
コンクリート製品製造・販売事業	497
水門・堰の製造及び施工並びに保守事業	143
情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業	6
コンクリート構造物の点検・調査事業	13
全社共通	24
合計	683

- (注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。  
2 全社共通は、人事総務及び財務経理等の管理部門の従業員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
232	45.7	19.0	5,400,515

セグメントの名称	従業員数(名)
コンクリート製品製造・販売事業	208
全社共通	24
合計	232

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3 全社共通は、人事総務及び財務経理等の管理部門の従業員であります。

### (3) 労働組合の状況

労使関係については、特に記載すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和政策を背景としたデフレ脱却への期待感から、円高の是正や株価の上昇が見られる中、企業業績の改善や雇用情勢の改善による個人消費が増加する等、景気は緩やかに回復しております。しかしながら、国内の原材料・エネルギー価格の高騰や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動等により、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要事業分野におきましては、競合他社との厳しい企業間競争下にあります。政府による緊急経済政策や九州北部豪雨災害の復旧工事等による公共工事の増加により、主要市場である九州圏内での需要は拡大しました。

このような状況の中で当社は、経営環境の変化への対応や競合他社との差別化を図るべく、部門間の連携強化等による営業力の強化並びに大型分割アーチカルバートの開発等プレキャスト製品化の推進による提案力の強化や、製造部門における生産性向上によるコスト削減強化に努めて参りました。また、関係会社におきましては、年度末に集中する工事の完成に対応できる体制を整えて参りました。

これらの結果、当連結会計年度の業績は、売上高が229億32百万円（前年同期比35.5%増）、営業利益が14億36百万円（前年同期比292.1%増）、当期純利益が8億56百万円（前年同期比157.1%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (コンクリート製品製造・販売事業)

コンクリート製品製造・販売事業の売上は、土木製品、景観製品、レジンコンクリート製品の販売によるものであります。

当連結会計年度においては、政府による緊急経済政策や九州北部豪雨災害の復旧工事等による公共工事の増加により需要は拡大しました。このような状況の中、主力の土木製品群を中心に、受注強化に継続的に取り組んで参りました。

その結果、当連結会計年度においては、コンクリート製品製造・販売事業の売上高は、177億54百万円（前年同期比31.5%増）、セグメント利益（営業利益）は8億1百万円（前年同期比177.5%増）となりました。

#### (水門・堰の製造及び施工並びに保守事業)

水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売上は、水門、除塵機、水管橋等鋼構造物の製造、施工並びにそれらの保守によるものであります。

当連結会計年度においては、補正予算等により九州圏内での完成工事高が著しく増加したことに加え、採算の確保に努めた結果、水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売上高は45億83百万円（前年同期比57.8%増）、セグメント利益（営業利益）は5億91百万円（前年同期比814.3%増）となりました。

#### (情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業)

情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業の売上は、主に金融機関向け業務処理支援機器、貨幣処理機及びその周辺機器の販売並びにそれらの保守、LED照明の販売によるものであります。

当連結会計年度においては、情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業の売上高は3億41百万円（前年同期比6.6%増）、セグメント利益（営業利益）は7百万円（前年同期比210.7%増）となりました。

#### (コンクリート構造物の点検・調査事業)

コンクリート構造物の点検・調査事業の売上は、橋梁、トンネル等コンクリート構造物の点検・調査業務の請負、補修・補強設計業務の請負によるものであります。

当連結会計年度においては、コンクリート構造物の点検・調査事業の売上高は2億62百万円（前年同期比26.3%増）、セグメント利益（営業利益）は36百万円（前年同期比244.5%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、営業活動により13億14百万円増加し、投資活動により4億81百万円、財務活動により4億83百万円それぞれ減少したことにより、当連結会計年度末には、18億14百万円（前連結会計年度14億65百万円）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における営業活動による資金の増加は、13億14百万円（前連結会計年度は7億99百万円の増加）となりました。これは主に、売上債権の増加で24億40百万円資金が減少したものの、税金等調整前当期純利益で12億96百万円、仕入債務の増加で17億29百万円、減価償却費で4億31百万円資金がそれぞれ増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における投資活動による資金の減少は、4億81百万円（前連結会計年度は2億80百万円の増加）となりました。これは主に、生産設備や型枠の更新、有形固定資産の取得による支出で4億50百万円資金が減少したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における財務活動による資金の減少は、4億83百万円（前連結会計年度は7億56百万円の減少）となりました。これは主に、長期借入金による収入並びに返済により3億12百万円、リース債務の返済により1億44百万円資金がそれぞれ減少したことによるものであります。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

#### 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
コンクリート製品製造・販売事業		
土木製品	5,935,602	21.9
景観製品	31,878	11.5
レジンコンクリート製品	235,858	1.5
計	6,203,339	20.6
水門・堰の製造及び施工並びに保守事業	3,317,672	50.2
コンクリート構造物の点検・調査事業	155,872	15.6
合計	9,676,885	29.3

- (注) 1 金額は製造原価で表示しております。  
2 上記金額には消費税等は含まれておりません。  
3 セグメント間取引については、相殺消去しております。

#### 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
コンクリート製品製造・販売事業		
土木商品	7,098,966	41.8
景観商品	169,787	42.3
レジンコンクリート商品	38,406	510.4
計	7,307,160	42.4
情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業	269,833	21.3
合計	7,576,993	41.5

- (注) 1 金額は仕入価格で表示しております。  
2 上記金額には消費税等は含まれておりません。  
3 セグメント間取引については、相殺消去しております。

### (2) 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
水門・堰の製造及び施工並びに保守事業	4,467,774	47.2	1,389,879	3.1
合計	4,467,774	47.2	1,389,879	3.1

- (注) 1 他のセグメントにつきましては、一部特殊製品についてのみ受注生産を行っておりますが、大部分は過去の実績に基づく見込み生産を行っておりますので記載を省略しております。  
2 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
		金額(千円)	前年同期比(%)
コンクリート製品製造・販売事業			
製品	土木製品	9,037,941	24.1
	景観製品	69,045	16.0
	レジンコンクリート製品	335,979	6.8
	計	9,442,966	22.9
商品	土木商品	8,068,120	42.3
	景観商品	198,667	42.3
	レジンコンクリート商品	44,542	482.3
	計	8,311,330	42.9
小計		17,754,297	31.5
水門・堰の製造及び施工並びに保守事業		4,575,187	57.9
情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業		341,168	6.6
コンクリート構造物の点検・調査事業		262,298	26.3
合計		22,932,951	35.5

- (注) 1 総販売実績に対して10%以上に該当する販売先はありません。  
2 上記金額には消費税等は含まれておりません。  
3 セグメント間取引については、相殺消去しております。

### 3 【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、政府は平成26年度予算において、インフラ老朽化対策の加速や防災対策の強化等を打ち出しておりますが、主要市場である九州圏内においては、公共工事の増加が不透明な中で、競合他社との企業間競争の激化、円安による原材料の高騰等による製造コストの増加も懸念され、次期は予断を許さない状況で推移するものと認識しております。

このような状況にあって当社グループは、引き続き、競合他社との差別化並びに新たな需要の掘り起こしを図るべく、市場ニーズを収集し、新製品・新技術・新工法の開発等による技術・提案力の強化に取り組んで参ります。また、生産性・採算性の向上による競争力の強化、製品供給体制の強化やグループ会社内の情報共有化等による営業力の強化に取り組み、利益確保に邁進する所存であります。

### 4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財政状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成26年6月30日)現在において判断したものであります。

#### (1)季節的変動

当社グループの売上高は、公共事業の関連が多いため季節的変動が著しく、上半期(第1、第2四半期連結会計期間)と下半期(第3、第4四半期連結会計期間)に区分した場合、下半期(第3、第4四半期連結会計期間)に集中する傾向にあります。このため、上半期(第1、第2四半期連結会計期間)の決算が赤字計上となる可能性が高くなります。

#### (2)公共事業

当社グループは公共事業に依存する割合が高く(売上高の90%~95%)、国及び地方公共団体の財政事情が経営に影響を及ぼします。

#### (3)貸倒損失の発生

当社グループは十分な与信管理を行っておりますが、取引先に予期せぬ貸倒れが発生した場合は少なからず損益に影響を及ぼす可能性があります。

#### (4)競合他社との競争

当社グループの主要市場である九州圏内における経営環境は、従来から過剰供給構造下にあることから、過当競争による受注量の減少や販売単価の下落により、当社グループの収益を圧迫する可能性があります。

#### (5)鉄筋、セメント、重油等資材価格の変動

当社グループが使用する主要な原材料である鉄筋、セメント、重油等の資材価格は不安定な外的要因の影響を受ける可能性が高く、価格の高騰により当社グループの収益を圧迫する可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

当社グループは、東日本大震災や九州北部豪雨災害からの復興、復旧について社会資本整備という観点から貢献し、実践するために以下のテーマを基に技術本部（開発・設計部）を中心に研究開発活動を行っております。

なお、当連結会計年度における研究開発費の総額は54百万円であります。

セグメントごとの研究開発活動を示すと次のとおりであります。

### (1) コンクリート製品製造・販売事業

省力化及びコスト縮減を目指した製品開発

景気回復の兆しが見えて参りました昨今においても、景気動向は不透明な部分もあり、そのような中で生き抜いて行くためにご提供させて頂く製品においては、省力化とコスト縮減が必須の条件となってまいります。

昨今の厳しい過当競争に勝ち抜くために、低価格、短工期等の厳しい条件下において、より価値を発揮できるような製品開発を目指し、例えば大断面、高盛土条件における大型分割アーチカルバートを開発したように他の製品についても開発・設計に取り組んでおります。

現場打ちコンクリート在来工法のプレキャスト製品化

現在、コンクリート構造物に求められているものは、アセットマネジメントにみられるように適切かつ戦略的な維持管理であり、高品質、高強度が必須となってまいります。一方では経験的要素が必要とされる業種であるにもかかわらず、熟練工の退職等による技術力の低下により、品質確保がより困難になっている現状です。そこで現場打ちコンクリートをプレキャスト化することにより、施工現場において高度な熟練を必要とせず、かつ簡単に高品質、高強度のコンクリート構造物を導入することが可能となります。

製品開発にあたっては、高品質、高強度はもとより、施工性、安全性にも配慮し、常に誰が施工しても均一な性能を安全に発揮できる製品を目指して開発活動を行っております。

防災・環境等の社会ニーズに沿った新しい分野の製品開発

昨今の社会情勢を考えると、東日本大震災以降防災分野におけるまちづくり、環境に優しい社会づくりなどについて特に強く叫ばれるようになりました。その一環として例えば堤防補強製品やねばり強い堤防整備製品等について開発に取り組んでいるところであります。

製品開発は、お客様のニーズにお応えすることが第一でなければなりません。これらの社会動向やニーズにつきましても十分に市場調査を実施した上で、タイムリーな製品群を選定し開発を推進しております。

当連結会計年度における研究開発費の金額は51百万円であります。

### (2) 水門・堰の製造及び施工並びに保守事業

水門・堰の製造及び施工並びに保守事業では、水門等の改良を中心に研究開発を行っております。

当連結会計年度における研究開発費の金額は3百万円であります。

### (3) 「情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業」及び「コンクリート構造物の点検・調査事業」

特記すべき事項はありません。

当連結会計年度における研究開発費の発生はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

### （1）重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表の作成にあたっては、経営者により、一定の会計基準の範囲内で資産、負債並びに収益、費用の数値に影響を与える見積りが行われている部分があります。当該見積りにつきましては、継続して評価し、必要に応じて見直しを行っておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

### （2）当連結会計年度の経営成績の分析

経営成績につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」をご参照願います。

### （3）資本の財源及び資金の流動性についての分析

#### 財政状態の分析

流動資産は、前連結会計年度末に比べて33.5%増加し、123億45百万円となりました。これは、主として、受取手形及び売掛金が25億43百万円、たな卸資産が1億70百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて5.8%増加し、43億2百万円となりました。これは、主として、有形固定資産が1億33百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて25.0%増加し、166億48百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて23.6%増加し、123億4百万円となりました。これは、主として、支払手形及び買掛金が17億29百万円、未払法人税等が4億18百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて微増の9億62百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて21.6%増加し、132億67百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて40.7%増加し、33億81百万円となりました。これは、主として、利益剰余金が8億31百万円増加したことなどによるものであります。

#### キャッシュ・フローの状況の分析

キャッシュ・フローの状況の分析につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」をご参照願います。



### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、製造設備の新設及び更新などを目的とした設備投資を継続的に実施しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は7億37百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

また、当連結会計年度において、1億26百万円の減損損失を計上しております。減損損失の詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結損益計算書関係) 6 減損損失」をご参照ください。

##### (1) コンクリート製品製造・販売事業

当連結会計年度の設備投資につきましては、製造設備の新設及び更新などを目的とし総額7億7百万円の設備投資を実施いたしました。

土木製品につきましては、佐賀工場の即時脱型成形設備及び大分工場並びに鹿児島工場のライン設備などを中心に総額7億円の設備投資を実施しました。

景観製品及びレジンコンクリート製品につきましては、工具型枠を中心に総額7百万円の投資額となりました。

##### (2) 「水門・堰の製造及び施工並びに保守事業」及び「情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業」及び「コンクリート構造物の点検・調査事業」

製造設備の新設及び更新については特記すべき事項はありません。

## 2 【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は、以下のとおりであります。

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械及び装 置並びに工 具、器具及 び備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
本社 (福岡市早良区)	コンクリート製品製造・販売事業	統括業務施設	57,228	10,224	8,480 (2,310.36)	36,108		112,041	72
福岡工場 (福岡市早良区)	コンクリート製品製造・販売事業	土木製品製造設備	61,306	51,742	73,128 (19,279.45) 〔4,929.00〕	40,319	505	227,002	9 〔24〕
北九州工場 (福岡県鞍手郡小竹町)	コンクリート製品製造・販売事業	土木製品製造設備	71,004	43,781	210,117 (41,273.00) 〔549.00〕	65,398	2,502	392,804	6 〔6〕
佐賀工場 (佐賀県佐賀市)	コンクリート製品製造・販売事業	土木製品製造設備	127,563	180,400	123,446 (72,442.59) 〔6,696.00〕	153,602	2,166	587,180	7 〔29〕
大分工場 (大分県臼杵市)	コンクリート製品製造・販売事業	土木製品製造設備	84,754	40,191	167,548 (57,522.31) 〔1,660.00〕	69,234	7,021	368,751	13 〔27〕
高崎工場 (宮崎県都城市)	コンクリート製品製造・販売事業	土木製品製造設備	73,857	57,844	153,947 (80,665.09) 〔17,828.00〕	92,572		378,221	7 〔29〕
川南工場 (宮崎県児湯郡川南町)	コンクリート製品製造・販売事業	土木製品及び景観製品並びにレジンコンクリート製品製造設備	143,043	60,028	237,788 (80,728.16) 〔2,005.00〕	85,777	102	526,740	14 〔53〕
鹿児島工場 (鹿児島県霧島市)	コンクリート製品製造・販売事業	土木製品製造設備	63,403	86,239	168,630 (64,172.25) 〔18,836.10〕	85,420	10	403,703	8 〔34〕

(注) 1 帳簿価額のうち、「その他」は、車両運搬具であり、建設仮勘定は含まれておりません。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 土地及び建物の一部を賃借しております。賃借している土地の面積については〔 〕書きで外書しております。

3 従業員数の〔 〕書きは子会社の従業員数を外書しております。

4 リース契約による主な賃借設備は以下のとおりであります。

事業所名	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料	リース契約残高
本社 他 (福岡市早良区 他)	コンクリート製品製造・販売事業	電子計算機器	5,789千円	8,604千円
佐賀工場 他 (佐賀県佐賀市 他)	コンクリート製品製造・販売事業	工具型枠	122,272千円	320,395千円
鹿児島工場 他 (鹿児島県霧島市 他)	コンクリート製品製造・販売事業	車両運搬具	24,781千円	54,239千円

5 子会社の保有する設備については、重要なものがないため記載を省略しております。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設等

経常的な設備の更新を除き、重要な設備の新設等の確定した計画はありません。

#### (2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の確定した計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,024,000
優先株式	2,000,000
計	22,024,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年6月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,506,000	同左	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	(注)4、5、8
第1回優先株式 (行使価額修正条項 付新株予約権付社債 券等であります。)	2,000,000	同左	非上場	(注)2、3、4、6、7、 8
計	7,506,000	同左		

(注) 1 提出日現在の発行数には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの第1回優先株式の転換により発行された株式数は、含まれておりません。

#### 2 当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の特質

- (1) 株価の下落により、当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に表示された権利の行使により取得されることとなる株式の数は増加いたします。
- (2) 行使価額の修正基準は、毎年9月1日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)における当社普通株式の普通取引の毎事業日の終値の平均値といたします。
- (3) 行使価額は、前項記述の平均値が、34円を下回るときは34円を下限といたします。
- (4) 当社は、いつでも法令の定めるところに従って、優先株主との合意により当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等を取得し、法令の定めるところに従って消却することができます。

#### 3 当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に表示された権利の行使に関する事項、権利の売買に関する事項について、当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の所有者との間に取決めはありません。また、株券の貸借に関する事項について、当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の所有者と会社の特別利害関係者等との間に取決めはありません。さらに、その他投資者の保護を図るための事項についても該当ありません。

#### 4 当社の株式の単元株式数は、全ての種類の株式について1,000株であります。

#### 5 当社の発行している普通株式は、株主としての権利内容に制限のない当社における標準となる株式であります。

#### 6 第1回優先株式は、現物出資(借入金)の株式化(600,000千円)により発行されたものであります。

#### 7 優先株式の内容は次のとおりであります。

##### 優先期末配当

- (1) 当社は、定款第58条に定める期末配当金を支払うときは、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された優先株式を有する株主(以下、優先株式を有する株主を「優先株主」という。)または優先株式の登録株式質権者(以下「優先登録株式質権者」という。)に対し、当該事業年度の3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された普通株式を有する株主(以下「普通株主」という。)または普通株式の登録株式質権者(以下「普通登録株式質権者」という。)に先立ち、1事業年度につき優先株式1株当たり以下の計算式により算出される額または30円のいずれか少ない額の金銭(以下「優先期末配当金」という。)を、剰余金の分配可能額がある限り必ず支払う。

優先期末配当金の金額 = 300円 × 各事業年度毎に算出する本項(2)に定める年率(以下「配当年率」という。)

ただし、当該事業年度において、に定める優先中間配当金を支払ったときは、上記金額から当該優先中間配当金の額を控除した額を優先期末配当金として支払う。

- (2) 優先期末配当年率は、平成16年8月31日以降、次回配当年率決定日の前日までの各事業年度について、以下の計算式により計算される年率とする。ただし、配当年率は、%位未満小数第4位まで算出し、その小数第4位を四捨五入する。

配当年率 = 日本円TIBOR(6ヶ月物) + 1.50%

配当年率決定日は、初回は平成16年8月31日とし、以降毎年4月1日とする。ただし、当日が銀行休業日の場合は、前営業日を配当年率決定日とする。

日本円TIBOR(6ヶ月物)は、各配当年率決定日において、午前11時の日本円6ヶ月物トーキョー・インター・バンク・オファード・レート(日本円TIBOR)として全国銀行協会によって公表される数値を指すものとする。

日本円TIBOR(6ヶ月物)が公表されていない場合は、同日(当日が銀行休業日の場合は前営業日)ロンドン時間午前11時におけるユーロ円6ヶ月物ロンドン・インター・バンク・オファード・レート(ユーロ円LIBOR6ヶ月物(360日ベース))として英国銀行協会(BBA)によって公表される数値またはこれに準ずるものと認められるものを日本円TIBOR(6ヶ月物)に代えて用いるものとする。

- (3) 優先株式に対する期末配当が、当該事業年度において本項(1)の優先期末配当金の額に達しない場合であっても、その差額は翌事業年度以降に累積しない。
- (4) 優先株式に対しては、1事業年度における期末配当としては本項(1)に規定する優先期末配当金の額を超えては配当しない。

#### 優先中間配当

- (1) 当社は、定款第59条に定める金銭の分配をするときは、毎年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された優先株主または優先登録株式質権者に対し、普通株主または普通登録株式質権者に先立ち、優先株式1株につき優先期末配当金の2分の1に相当する額(以下「優先中間配当金」という。)の分配を必ず行う。
- (2) 優先株式に対しては、本項(1)の優先中間配当金の額を超えては中間配当を行わない。

#### 残余財産分配

- (1) 当社は、残余財産を分配するときは、優先株主または優先登録株式質権者に対し、普通株主または普通登録株式質権者に先立ち、優先株式1株につき300円までの金額を分配する。
- (2) 優先株式に対しては、300円を超えては残余財産の分配を行わない。

#### 議決権

優先株主は、株主総会において議決権を有しない。

#### 種類株主総会の決議事項

法令に定める種類株主総会の承認事項及び次の事項については、種類株主総会の承認を要する。

剰余金の配当、中間配当、自己株式取得(優先株主による取得請求権の行使及び優先株主との合意による有償取得を含み、無償取得、会社法の規定に基づく株式買取請求権に応じた買取、会社法第234条第4項に基づく1株に満たない端株の買取及び同法第197条第3項に基づく所在不明株主の株式の買取は含まない。)、資本または準備金の減少に伴う払い戻し(以下あわせて「剰余金の分配等」という。)の結果、最終の貸借対照表上の金額を基準として算定した純資産額が6億円を下回ることになる剰余金の分配等の決定。

#### 取得請求権(1)

- (1) 優先株主は、平成21年4月1日以降、毎年7月1日から7月31日までの期間(以下「請求可能期間」という。)において、当会社に対して、優先株式1株を取得するのと引換えに、当該優先株式の発行価額に相当する金銭の交付を請求することができる。この請求があった場合、当社は償還請求期間満了の日から1ヶ月以内に金銭を交付する。
- (2) 取得請求により交付すべき金銭の合計額が前事業年度における分配可能額の2分の1を超える場合、取得の順位は、請求可能期間経過後において実施する抽選その他の方法により決定する。

#### 合意による取得・消却

- (1) 当社は、いつでも法令に定めるところに従って、優先株主との合意により優先株式を有償で取得することができる。
- (2) 当会社は前項により取得した優先株式を法令に定めるところに従って消却することができる。

取得請求権(2)

- (1) 優先株主は、平成19年9月1日以降いつでも、当社の株主名簿管理人に対し、優先株式1株につき、以下の計算式により算出される数の普通株式を交付するよう請求することができる。ただし、以下の計算式による算出の結果1株に満たない端数が生じたときは、これを切り捨てる。

優先株式1株につき取得できる普通株式の数 = 300円 ÷ 本項(2)から(4)に従って定められる金額(以下「取得価額」という。)

- (2) 取得価額は、平成19年9月1日から平成20年8月31日までの間に取得請求を行う場合については、金111円とする(以下この価額を「当初取得価額」という。)  
平成20年9月1日以降に取得請求を行う場合の取得価額については、毎年9月1日を取得価額修正日とし、取得価額修正日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の、日本証券業協会が公表する当社普通株式の普通取引の毎事業日の終値(気配表示を含む。)の平均値(終値のない日数を除く。円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。)を、次回取得価額修正日までの間の取得価額とする。ただし、前記の平均値が、当初取得価額を超えたときは当初取得価額を上限取得価額とし、当初取得価額の30%を下回ったときは当初取得価額の30%を下限取得価額とする。
- (3) 優先株式発行後に、以下のaからdのいずれかに該当する事情が生じた場合には、取得価額を以下のからに定める算定方法により調整する。

取得価額調整の算定方法

取得価額の調整は次の取得価額調整式によるものとする。ただし、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。

$$\text{調整後取得価額} = \text{調整前取得価額} \times \frac{\text{既発行普通株式数} + \frac{\text{新規発行普通株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{1株当たり時価}}}{\text{既発行普通株式数} + \text{新規発行普通株式数}}$$

取得価額調整式に使用する1株当たりの時価は、調整後取得価額を適用する日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の、日本証券業協会が公表する当社普通株式の普通取引の毎事業日の終値(気配表示を含む。)の平均値(終値のない日数を除く。円位未満小数第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。)とする。

取得価額調整式に使用する調整前取得価額は、調整後取得価額を適用する前日において有効な取得価額とし、また、取得価額調整式で使用する既発行普通株式数は、株主割当日がある場合はその日、また、株主割当日がない場合は調整後取得価額を適用する日の1ヶ月前の日における当社の発行済普通株式数とする。

取得価額調整をすべき事情

- a 取得価額調整式に使用する時価を下回る払込金額をもって普通株式を発行する場合(自己株式を処分する場合を含む。)  
この場合、調整後取得価額は、払込期日の翌日以降または募集のための株主割当日がある場合はその日の翌日以降、これを適用する。
- b 株式の分割により普通株式を発行する場合。  
この場合、調整後取得価額は、株式分割のための株主割当日の翌日以降、これを適用する。ただし、剰余金から資本に組入れられることを条件としてその部分をもって株式の分割により普通株式を発行する旨取締役会で決議する場合で、当該剰余金の資本組入れの決議をする株主総会の終結の日以前の日を株式の分割のための株主割当日とする場合には、調整後取得価額は、当該剰余金の資本組入れの決議をした株主総会の終結の日の翌日以降、これを適用する。
- c 取得価額調整式に使用する時価を下回る価額で普通株式への新株予約権または取得請求権を行使できる証券を発行する場合。  
この場合、調整後取得価額は、その証券(権利)の発行日にまたは募集のための株主割当日がある場合はその日の終わりに、発行される証券(権利)の全額が取得されまたは全ての新株予約権が行使されたものとみなし、その発行日の翌日以降またはその割当日の翌日以降これを適用する。以後の調整においては、かかるみなし株式数は、実際に当該取得または当該新株予約権の行使がなされた結果発行された株式数を上回る限りにおいて、既発行の普通株式数に算入される(dについても同様とする。)

d 普通株式を取得することができる株式または新株予約権を行使できる証券(権利)であって、取得価額または新株予約権の行使価額が発行日に決定されておらず発行日以降の一定の日(以下本項において「価額決定日」という。)の時価を基準として決定されるものを発行した場合において、決定された取得価額または権利行使により発行される普通株式1株当たりの発行価額が取得価額調整式に使用する時価を下回る場合。

この場合、調整後取得価額は、当該価額決定日の時点で残存する証券(権利)の全額が取得されまたは全ての新株予約権が行使されたものとみなし、当該価額決定日の翌日以降これを適用する。

- (4) 本項(3) a から d に掲げる場合の他、優先株式発行後に合併、資本の減少または普通株式の併合などが行われ、取得価額の調整を必要とする場合には、合併比率、資本の減少の割合、併合割合などに即して、取締役会が適当と判断する取得価額に変更する。
- (5) 本項(3)、(4)に基づき取得価額の調整を行う場合には、上限取得価額及び下限取得価額についても本項(3)、(4)の規定を準用する。この場合、「取得価額」を「上限取得価額」または「下限取得価額」に置き換えるものとする。
- (6) 取得請求は、取得請求に要する書類及び優先株券を、当社の株主名簿管理人に呈示したとき(郵送の場合は到達したとき。)に行使されたものとし、取得請求の効力は取得請求行使時に発生するものとする。
- (7) 優先株式の取得請求権行使により発行された株式に対する最初の期末配当金または中間配当金は、取得の請求が、4月1日から9月30日の間になされたときは4月1日に、10月1日から翌年3月31日までの間になされたときは10月1日にそれぞれ取得請求があったものとみなしてこれを支払う。

株式併合・株式分割・募集株式・募集新株引受権

- (1) 当社は、法令に定める場合を除き、優先株式については、株式の併合または分割は行わない。
- (2) 当社は優先株主には募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利を与えず、優先株主に対して募集株式または募集新株予約権の割当てを行わない。

なお、本優先株式について、会社法第322条第2項の規定による定款の定めはありません。

#### 8 議決権の有無及びその理由

普通株式については議決権に制限はありません。

第1回優先株式は、剰余金の配当及び残余財産の分配について普通株式に優先すること並びに普通株式を対価とする取得請求権が付されていること等の株式の内容との関係から、株主総会において議決権を有しないこととしております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

第1回優先株式

	第4四半期会計期間 (平成26年1月1日から 平成26年3月31日まで)	第57期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)
当該期間に権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数(個)		
当該期間の権利行使に係る交付株式数(株)		
当該期間の権利行使に係る平均行使価額等(円)		
当該期間の権利行使に係る資金調達額(千円)		
当該期間の末日における権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数の累計(個)		
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の交付株式数(株)		
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の平均行使価額等(円)		
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の資金調達額(千円)		

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成16年8月31日 (注)	2,000,000	7,506,000	300,000	800,000	300,000	300,000

(注) 債務の株式化による第三者割当増資(発行価額300円、資本組入額150円、割当先 株式会社福岡銀行)に伴い優先株式を発行したことによる増加額であります。



(6) 【所有者別状況】

普通株式

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		11	16	40	5		443	515	
所有株式数(単元)		1,368	356	707	23		3,043	5,497	9,000
所有株式数の割合(%)		24.89	6.47	12.86	0.42		55.36	100.00	

(注) 自己株式1,004,447株は、「個人その他」に1,004単元、「単元未満株式の状況」に447株含まれております。

第1回優先株式

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		1						1	
所有株式数(単元)		2,000						2,000	
所有株式数の割合(%)		100.00						100.00	

(7) 【大株主の状況】

所有株式数別

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神 2 - 13 - 1	2,222	29.60
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内 2 - 1 - 1 (東京都中央区晴海 1 - 8 - 12晴海アイラン ドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	325	4.33
株式会社鹿児島銀行	鹿児島県鹿児島市金生町 6 - 6	195	2.60
株式会社トクヤマ	山口県周南市御影町 1 - 1	181	2.41
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町 1 - 2 - 10	180	2.40
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前 3 - 1 - 1	160	2.13
ヤマウ従業員持株会	福岡市早良区東入部 5 - 15 - 7	147	1.96
株式会社佐賀銀行	佐賀県佐賀市唐人 2 - 7 - 20	130	1.73
リックス株式会社	福岡市博多区山王 1 - 15 - 15	112	1.49
昭和電工株式会社	東京都港区芝大門 1 - 13 - 9	101	1.35
計		3,753	50.00

(注) 上記のほか当社所有の自己株式1,004千株(13.38%)があります。

所有議決権数別

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権 に対する 所有議決権数 の割合(%)
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内 2 - 1 - 1 (東京都中央区晴海 1 - 8 - 12晴海アイラン ドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	325	7.23
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神 2 - 13 - 1	222	4.94
株式会社鹿児島銀行	鹿児島県鹿児島市金生町 6 - 6	195	4.34
株式会社トクヤマ	山口県周南市御影町 1 - 1	181	4.03
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町 1 - 2 - 10	180	4.01
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前 3 - 1 - 1	160	3.56
ヤマウ従業員持株会	福岡市早良区東入部 5 - 15 - 7	147	3.27
株式会社佐賀銀行	佐賀県佐賀市唐人 2 - 7 - 20	130	2.89
リックス株式会社	福岡市博多区山王 1 - 15 - 15	112	2.49
昭和電工株式会社	東京都港区芝大門 1 - 13 - 9	101	2.25
計		1,753	39.02

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	優先株式 2,000,000		「1 株式等の状況」の「(1)株式の総数等」の「発行済株式」の注記参照
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,004,000		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,493,000	4,493	同上
単元未満株式	普通株式 9,000		同上
発行済株式総数	7,506,000		
総株主の議決権		4,493	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式447株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式 数の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヤマウ	福岡市早良区東入部 5 - 15 - 7	1,004,000		1,004,000	13.38
計		1,004,000		1,004,000	13.38

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式数	895	319
当期間における取得自己株式	52	24

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	1,004,447		1,004,499	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡しによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要政策として位置付けており、安定配当の継続を基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当期の利益配当につきましては、普通株式1株当たりの期末配当金は、1株につき3円の特別配当を実施し、普通配当3円に特別配当3円を加えた6円、優先株式の1株当たり期末配当金は5円41銭5厘といたしました。

内部留保資金につきましては、今後の事業展開への備えと、設備投資等に有効活用していくこととしております。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当金 (円)
平成26年6月27日 定時株主総会決議	普通株式	27,009	6.000
平成26年6月27日 定時株主総会決議	第1回優先株式	10,830	5.415

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

普通株式

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	112	215	145	259	548
最低(円)	59	75	83	100	183

(注) 最高・最低株価は、平成22年3月31日以前はジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日から平成25年7月15日までは大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

第1回優先株式

当社第1回優先株式は、非上場であるため、該当事項はありません。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

普通株式

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	441	401	399	472	548	515
最低(円)	268	360	349	384	338	450

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

第1回優先株式

当社第1回優先株式は、非上場であるため、該当事項はありません。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		権 藤 勇 夫	昭和16年7月30日生	平成3年10月 住友商事(株) 関西プロジェクト推進室次長 平成8年8月 当社 入社 関西事業本部副本部長 平成9年6月 当社 取締役関西事業本部副本部長 平成10年4月 当社 常務取締役環境・景観事業本部長 平成14年10月 当社 専務取締役兼営業本部長 平成15年5月 当社 代表取締役社長兼営業本部長 平成16年4月 当社 代表取締役社長 平成18年6月 (社)全国宅地擁壁技術協会 会長(現任) 平成24年6月 当社 代表取締役会長(現任)	(注)2	普通株式 74
代表取締役 社長		中 村 健一郎	昭和22年5月9日生	平成14年4月 ふくぎん保証(株) 常務取締役 平成16年4月 当社 入社 執行役員管理本部長 平成16年6月 当社 取締役管理本部長 平成19年6月 当社 常務取締役管理本部長 平成22年6月 当社 専務取締役管理本部長 平成24年6月 当社 代表取締役社長(現任)	(注)2	普通株式 59
専務取締役	技術本部長	小 嶺 啓 藏	昭和25年11月20日生	平成19年10月 オリエンタルコンクリート(株) 取締役専務執行役員施工技術本部長 平成21年4月 当社 入社 執行役員技術本部長 平成22年4月 当社 常務執行役員技術本部長 平成23年4月 当社 専務執行役員技術本部長 平成24年6月 当社 常務取締役技術本部長 平成25年6月 当社 専務取締役技術本部長(現任)	(注)2	普通株式 12
常務取締役	営業所轄	伊 佐 寿 起	昭和26年1月1日生	昭和56年6月 ヤマウコンクリート工業(株) 入社 昭和59年1月 当社 入社 平成7年4月 当社 九州事業本部大分事業部長 平成7年6月 当社 取締役九州事業本部大分事業部長 平成10年4月 当社 取締役環境・景観事業本部副本部長 平成14年4月 当社 取締役営業本部関東支社長兼関東営業部長 平成15年6月 当社 取締役営業本部佐賀・長崎営業部、大分営業部、熊本営業部、景観・REC営業部担当 平成16年4月 当社 取締役営業本部長 平成18年8月 九コン販売(株) 代表取締役社長 平成22年6月 当社 常務取締役営業本部長 平成24年4月 当社 常務取締役営業所轄(現任)	(注)2	普通株式 49
取締役	営業本部長	徳 安 正 範	昭和28年4月20日生	昭和52年4月 当社 入社 平成8年4月 当社 関西事業本部開発営業部長 平成14年4月 当社 執行役員営業本部関西支社長 平成15年6月 当社 執行役員営業本部福岡営業部長 平成18年8月 当社 執行役員営業本部副本部長 平成20年7月 当社 常務執行役員営業本部副本部長 平成23年4月 当社 専務執行役員営業本部副本部長 平成24年4月 当社 専務執行役員営業本部長 平成25年6月 当社 取締役営業本部長(現任)	(注)2	普通株式 12

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有 株式数 (千株)
常勤監査役		平野 貞 義	昭和26年2月2日生	昭和48年3月 平成3年3月 平成3年4月 平成9年7月 平成14年4月 平成16年4月 平成20年6月	飯田産業(株) 入社 当社 入社 当社 総務部次長 当社 総務部長 当社 執行役員総務部長 当社 執行役員管理本部副本部長 兼人事総務部長 当社 常勤監査役(現任)	(注)3	普通株式 11
監査役		長野 紘 一	昭和14年6月11日生	平成18年6月 平成20年6月	㈱富士ビー・エス 特別顧問 (現任) 当社 監査役(現任)	(注)3	普通株式 5
監査役		右田 國 博	昭和22年10月3日生	平成24年4月 平成24年6月	福岡コンピューターサービス(株) 顧問 当社 監査役(現任)	(注)3	
計							普通株式 222

- (注) 1 監査役長野紘一、右田國博は、社外監査役であります。
- 2 取締役の任期は、平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

当社の企業統治の体制につきましては、会社法に基づく機関として株主総会及び取締役のほか、取締役会、監査役、監査役会、会計監査人を設置しており、その他、本部長会議、監査室を設置しております。

現状の体制につきましては、取締役5名（提出日現在）であり、相互チェックが図れるとともに、監査役3名（うち社外監査役2名、提出日現在）による業務執行全般にわたっての経営監視体制、並びに会計監査人、監査役会及び内部監査部門並びに内部統制部門との連携に留意するなど十分な監督体制が構築されているものと考え、採用しております。

具体的な会社の機関の概要、内部統制システムの整備の状況等は以下のとおりであります。

#### 1. 会社の機関の内容

取締役会については、取締役5名（平成26年3月末現在）で構成しております。現在、社外取締役は選任しておりませんが、取締役の経営責任を明確にするため、取締役の任期を1年としております。

当社は監査役制度を採用しております。監査役会については監査役3名（平成26年3月末現在）で構成しており、うち社外監査役を2名選任しており、客観的な視点から、透明性の高い公正な経営監視体制の確立を図っております。

#### 2. 業務執行、監督の状況

当社は、取締役会を経営における意思決定機関であると同時に業務執行に関する監督機関と位置付けており、毎月開催する取締役会や臨時取締役会により経営に関する重要事項の審議、決議を行うとともに、業務執行状況の監督を行っております。また、経営責任を明確にするため取締役の任期を1年に短縮するとともに、執行役員制度の導入により経営責任と業務執行責任の明確化を図っております。

また、経営全般に亘る様々な課題についての検討・審議、取締役会へ上程する案件の整理・審議を行う「本部長会議」を設置し、週1回開催しております。当会議は、管理本部長、営業本部長、製造本部長及び技術本部長の4名で構成されており、経営の方向性の検討、日々の経営課題の解決、将来に対する経営課題の抽出及び対応等について全体最適の視点から迅速に検討し意思決定を行っております。

#### 3. 内部統制システムの整備の状況

当社は、内部統制システムに関し、下記の基本方針に基づき整備することとしております。

##### 1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、経営理念及び行動基準について定めている「ヤマウフィロソフィー」及び法令遵守、社会倫理の遵守を定めた「コンプライアンスマニュアル」に基づく企業活動により、コンプライアンス体制を確立する。

その徹底を図るため、全社のコンプライアンスの取り組みを横断的に統括する部署を設置し、同部署を中心に役員教育等を行なう。また、内部通報制度を確立し、問題点、問題行動の早期発見を実現する。なお、内部通報者に関しては秘匿扱いとし、人事考課等で不利益な扱いは行わないものとする。

##### 2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存・管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理につき全社的に統括する部署及び責任者を任命し、文書管理規程に基づき職務執行に係わる情報を文書または電磁的媒体に記録し、保存する体制を確立する。取締役及び監査役は、これらの文書を常時閲覧できるものとする。

##### 3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理規程を策定し、同規程においてリスクカテゴリーごとに責任部署を定め、グループ全体のリスクを網羅的・総括的に管理する体制を確立する。また、内部監査部門が部署ごとのリスク管理状況を監査する。

##### 4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役は、職務分掌に基づき、それぞれの職務を執行するものとし、業務執行上委任された決定事項については、職務権限規程に基づき必要な決定を行ない、推進するものとする。また、随時発生する経営課題の解決を図るなど全社的な業務の効率化を実現するために本部長会議を開催するものとする。



5) 企業集団における業務の適正性を確保するための体制

当社及びグループ各社における内部統制の構築を目指し、当社にグループ全体の内部統制に関する統括部署を設置するとともに、当社及びグループ各社間での内部統制に関する協議、情報の共有化、指示・要請の伝達等が効率的に行なわれる体制を確立する。なお、当社は、グループ各社において法令遵守体制を確立できるよう推進し、事業内容の定期的な報告と重要案件についての事前協議を行う。

6) 監査役が職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における使用人に関する体制及びその独立性に関する体制

監査役からの要請があれば、必要に応じて監査役の業務補助を行うスタッフを配置する。

当該監査役補助スタッフは、監査役の指示・命令に従うものとする。また、その人事については取締役と監査役が意見交換を行う。

7) 取締役・使用人が監査役に報告をするための体制その他監査役会への報告に関する体制

取締役は、法定で定められた事項に加え、当社及びグループ各社に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況について速やかに監査役に報告する体制を確立する。報告の方法については、取締役と監査役との協議により決定する。

8) その他監査役の監査が実効的に行われていることを確保するための体制

常勤監査役が取締役会などの重要会議に出席し、取締役とは職務を異にする独立機関であることを十分に認識して積極的意見を表明できる体制を整備するとともに、取締役・使用人は、監査役から事実関係について説明を求められ、書類の閲覧を求められた場合には、これに協力する。

#### 内部監査及び監査役監査

内部監査につきましては、監査室（5名（うち専任1名））を設置しており、業務監査、会計監査及び社長特命による監査などの内部監査を随時実施し、内部牽制機能の充実を図るとともに、その実施状況について速やかに監査役会に報告する体制を確立するなどの連携を図っております。また、監査室及び会計監査人は、内部統制部門から内部統制に係る情報等の提供を受け適切な監査を行っております。

監査役監査につきましては、常勤監査役を中心に取締役会などの重要会議に出席し、取締役とは職務を異にする独立機関であることを十分に認識し積極的に意見を表明しており、十分な経営チェックを行える体制が整っております。また、当社の会計監査人である新日本有限責任監査法人から会計監査の内容について十分な説明を受けたり、適時会計面でのアドバイスを受けるとともに、情報の交換を行うなどの連携を図っております。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社では、独立性を確保し、経営監視機能の客観性、中立性を確保するため、監査役3名のうち2名を社外監査役として選任しております。

監査役は、定時取締役会等の重要な会議に出席して取締役の業務執行について意見を表明するなど業務執行の全般にわたって監査を実施しており、社外のチェックという観点から経営監視体制は十分に整っているため、現状の体制を採用しております。また、監査契約を締結している新日本有限責任監査法人と監査役会及び監査室並びに内部統制部門との連携にも十分に留意しております。

社外監査役のうち、長野紘一は、株式会社富士ピー・エスの特別顧問であります。

各社外監査役と当社との間に特別な利害関係はありません。当社においては、社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針はないものの、選任にあたっては、取締役会において株式会社東京証券取引所の定めに基づき、経営陣から著しいコントロールを受ける恐れがない一般株主保護の立場をとれる役員として適任であるかどうかを検討し、取締役会の決議により社外監査役を選任しております。

なお、当社では現在、社外取締役を選任しておりません。社外取締役に期待される外部的視点からの取締役会の監督機能の強化については、上述の監査実施状況を踏まえ、社外監査役2名による経営に対する監査機能の客観性・中立性が十分に確保できると考えられるため、現状の体制を採用しております。

役員の報酬等

1. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる役員の 員数(名)
		基本報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	130,780	111,960	18,820	5名
監査役 (社外監査役を除く。)	6,550	5,650	900	1名
社外役員	4,500	3,900	600	2名
計	141,830	121,510	20,320	8名

(注) 1. 「退職慰労金」の金額は、役員退職慰労引当金繰入額であります。

2. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

3. 使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

重要なものがないため、記載しておりません。

4. 役員の報酬等の額の決定に関する方針

株主総会にて決定する報酬総額の限度内で、経営内容、経済情勢、社員給与とのバランス等を考慮して、取締役の報酬は取締役会により決定し、監査役の報酬は監査役の協議により決定しております。

なお、平成4年2月14日開催の株主総会での決議により、取締役の賞与を含めた報酬総額は年額400百万円以内、また、平成8年6月27日の株主総会での決議により、監査役の報酬額は年額25百万円以内となっております。

株式の保有状況

1. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 14銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 241,689千円

2. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
リックス(株)	87,400	67,647	取引先等との関係強化
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	100,000	48,300	主要取引行等との関係強化
(株)鹿児島銀行	47,000	31,255	主要取引行等との関係強化
(株)佐賀銀行	80,000	19,120	主要取引行等との関係強化
(株)南陽	31,000	17,825	取引先等との関係強化
日本道路(株)	17,781	7,201	取引先等との関係強化
(株)商工組合中央金庫	40,000	5,600	主要取引行等との関係強化
(株)熊谷組	49,409	4,891	取引先等との関係強化
(株)西日本シティ銀行	16,000	4,720	主要取引行等との関係強化
第一生命保険(株)	21	2,656	主要取引行等との関係強化
みずほ信託銀行(株)	11,340	2,256	主要取引行等との関係強化

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
リックス(株)	87,400	79,271	取引先等との関係強化
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	100,000	42,400	主要取引行等との関係強化
(株)鹿児島銀行	47,000	30,785	主要取引行等との関係強化
(株)南陽	31,000	29,760	取引先等との関係強化
(株)佐賀銀行	80,000	17,920	主要取引行等との関係強化
(株)熊谷組	53,412	13,620	取引先等との関係強化
日本道路(株)	20,248	9,537	取引先等との関係強化
(株)商工組合中央金庫	40,000	6,720	主要取引行等との関係強化
(株)西日本シティ銀行	16,000	3,712	主要取引行等との関係強化
第一生命保険(株)	2,100	3,150	主要取引行等との関係強化
みずほ信託銀行(株)	11,340	2,313	主要取引行等との関係強化

(注) 第一生命保険(株)は、平成25年10月1日に株式分割を実施し1株を100株に分割しております。

3. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
業務執行社員	東 能利生 矢野 真紀	新日本有限責任監査法人

(注) 継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 9名                                その他 9名

(注) その他9名のうち、8名は公認会計士試験合格者、1名はITの専門知識を有する者であります。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

1. 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、当社の業務または財産の状況、その他の事情に対応して機動的に自己の株式の買受を行えるよう、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

2. 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議をもって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

取締役の定数及び選任の決議要件

当社の取締役は15名以内とする旨並びに取締役の選任決議は、議決権を行使することが出来る株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役選任の決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

議決権制限株式

当社は、自己資本の増強を行うことにより、財務体質の強化を図るため、会社法第108条第1項第3号に定める内容（いわゆる議決権制限）について普通株式と異なる定めをした議決権のない第1回優先株式を発行しております。

その他

IRによる適正な情報開示

適時・スピーディに株主、債権者及び社会に対して適正な情報開示を行うことにより企業の信頼向上を図ります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	24,000		24,000	
連結子会社				
計	24,000		24,000	

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度  
該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度  
該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。

具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入している。

会計基準設定主体等の行う研修へ積極的に参加している。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,727,882	2,059,363
受取手形及び売掛金	3, 4 5,438,139	3 7,981,763
有価証券	799	-
商品及び製品	1,259,851	1,352,870
仕掛品	563,589	602,939
原材料及び貯蔵品	258,312	296,287
繰延税金資産	-	96,385
その他	102,835	65,606
貸倒引当金	102,806	109,279
流動資産合計	9,248,605	12,345,936
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	1 3,355,247	1 3,246,579
減価償却累計額	2,521,711	2,391,859
建物及び構築物(純額)	833,536	854,719
機械装置及び運搬具	1 2,271,199	1 2,004,615
減価償却累計額	1,763,690	1,470,420
機械装置及び運搬具(純額)	507,508	534,195
土地	1 1,806,362	1 1,753,183
リース資産	525,265	674,609
減価償却累計額	255,648	285,494
リース資産(純額)	269,616	389,115
建設仮勘定	2,044	20,452
その他	365,749	313,458
減価償却累計額	288,864	235,528
その他(純額)	76,885	77,930
有形固定資産合計	3,495,954	3,629,596
<b>無形固定資産</b>		
その他	135,233	177,296
無形固定資産合計	135,233	177,296
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1 279,141	1 296,823
退職給付に係る資産	-	26,756
その他	334,379	246,731
貸倒引当金	177,522	74,398
投資その他の資産合計	435,999	495,912
固定資産合計	4,067,187	4,302,805
資産合計	13,315,793	16,648,742

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	4 4,129,736	5,858,771
短期借入金	1 4,228,492	1 3,912,891
1年内償還予定の社債	20,000	10,000
リース債務	113,648	142,740
未払金	728,173	960,213
未払法人税等	70,711	488,998
前受金	338,446	439,260
賞与引当金	184,500	171,421
その他	141,345	319,933
流動負債合計	9,955,054	12,304,230
<b>固定負債</b>		
社債	10,000	-
長期借入金	1 117,380	1 137,918
リース債務	169,324	261,399
繰延税金負債	22,204	92,598
退職給付引当金	444,389	-
役員退職慰労引当金	153,132	183,314
退職給付に係る負債	-	230,159
その他	40,653	57,516
固定負債合計	957,085	962,906
負債合計	10,912,139	13,267,136
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	800,000	800,000
資本剰余金	300,000	300,000
利益剰余金	1,226,433	2,057,885
自己株式	11,903	12,223
株主資本合計	2,314,529	3,145,662
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	50,609	66,588
退職給付に係る調整累計額	-	101,761
その他の包括利益累計額合計	50,609	168,350
少数株主持分	38,514	67,592
純資産合計	2,403,653	3,381,605
負債純資産合計	13,315,793	16,648,742



## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
売上高	16,923,641	22,932,951
売上原価	<sup>1</sup> 12,770,657	<sup>1</sup> 17,150,969
売上総利益	4,152,984	5,781,982
販売費及び一般管理費	<sup>2, 3</sup> 3,786,468	<sup>2, 3</sup> 4,345,043
営業利益	366,515	1,436,938
営業外収益		
受取利息	5,546	5,089
受取配当金	5,338	6,544
保険配当金	4,633	3,061
保険返戻金	20,572	-
鉄屑処分収入	26,746	35,463
利用分量配当金	31,762	41,661
雇用調整助成金	1,440	-
貸倒引当金戻入額	-	9,466
その他	50,309	52,948
営業外収益合計	146,349	154,235
営業外費用		
支払利息	86,506	79,616
手形売却損	12,406	13,472
その他	31,302	18,544
営業外費用合計	130,215	111,633
経常利益	382,649	1,479,540
特別利益		
固定資産売却益	<sup>4</sup> 956	<sup>4</sup> 664
投資有価証券売却益	-	531
負ののれん発生益	58,539	-
その他	440	-
特別利益合計	59,936	1,195
特別損失		
固定資産除却損	<sup>5</sup> 37,768	<sup>5</sup> 57,627
減損損失	-	<sup>6</sup> 126,313
その他	1,112	202
特別損失合計	38,880	184,143
税金等調整前当期純利益	403,704	1,296,592
法人税、住民税及び事業税	61,223	499,414
法人税等調整額	2,481	87,953
法人税等合計	63,705	411,461
少数株主損益調整前当期純利益	339,999	885,131
少数株主利益	7,014	29,077
当期純利益	332,984	856,053

【連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	339,999	885,131
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33,651	15,979
その他の包括利益合計	33,651	15,979
包括利益	373,650	901,110
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	366,636	872,032
少数株主に係る包括利益	7,014	29,077

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資 産合計
	資本金	資本 剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価 差額金	退職給付に 係る 調整 累計額	その他の 包括利益 累計額 合計		
当期首残高	800,000	300,000	914,100	11,809	2,002,291	16,957		16,957	31,500	2,050,748
当期変動額										
剰余金の配当			20,652		20,652					20,652
当期純利益			332,984		332,984					332,984
自己株式の取得				93	93					93
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						33,651		33,651	7,014	40,665
当期変動額合計			312,332	93	312,238	33,651		33,651	7,014	352,904
当期末残高	800,000	300,000	1,226,433	11,903	2,314,529	50,609		50,609	38,514	2,403,653

当連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資 産合計
	資本金	資本 剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価 差額金	退職給付に 係る 調整 累計額	その他の 包括利益 累計額 合計		
当期首残高	800,000	300,000	1,226,433	11,903	2,314,529	50,609		50,609	38,514	2,403,653
当期変動額										
剰余金の配当			24,601		24,601					24,601
当期純利益			856,053		856,053					856,053
自己株式の取得				319	319					319
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						15,979	101,761	117,741	29,077	146,819
当期変動額合計			831,452	319	831,132	15,979	101,761	117,741	29,077	977,951
当期末残高	800,000	300,000	2,057,885	12,223	3,145,662	66,588	101,761	168,350	67,592	3,381,605

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	403,704	1,296,592
減価償却費	379,522	431,274
減損損失	-	126,313
のれん償却額	8,521	-
負ののれん発生益	58,539	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	10,477	96,650
賞与引当金の増減額(は減少)	1,715	13,079
退職給付引当金の増減額(は減少)	23,135	444,389
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	387,685
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	24,999	30,182
受取利息及び受取配当金	10,885	11,633
支払利息	86,506	79,616
投資有価証券売却損益(は益)	-	531
固定資産売却損益(は益)	956	664
固定資産除却損	37,768	57,627
売上債権の増減額(は増加)	77,145	2,440,480
たな卸資産の増減額(は増加)	262,076	170,343
未収消費税等の増減額(は増加)	3,813	-
その他の流動資産の増減額(は増加)	19,289	15,511
その他の固定資産の増減額(は増加)	1,453	31,522
仕入債務の増減額(は減少)	352,381	1,729,034
未払消費税等の増減額(は減少)	11,831	69,001
その他の流動負債の増減額(は減少)	11,462	430,820
その他の固定負債の増減額(は減少)	9,429	17,316
その他	1,817	453
小計	904,660	1,461,228
利息及び配当金の受取額	10,885	11,667
利息の支払額	85,766	79,918
法人税等の支払額	29,925	78,665
営業活動によるキャッシュ・フロー	799,853	1,314,311
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	221,542	211,530
定期預金の払戻による収入	412,558	229,009
有価証券の償還による収入	-	799
有形固定資産の取得による支出	302,110	450,948
有形固定資産の売却による収入	1,013	666
無形固定資産の取得による支出	43,404	66,347
投資有価証券の取得による支出	15,887	1,962
投資有価証券の償還による収入	424	5,462
投資有価証券の売却による収入	-	1,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	443,764	-
貸付けによる支出	7,476	460
貸付金の回収による収入	12,637	23,150
その他	374	10,225
投資活動によるキャッシュ・フロー	280,351	481,384

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	177,000	17,831
長期借入れによる収入	-	100,000
長期借入金の返済による支出	424,948	412,894
社債の償還による支出	20,000	20,000
自己株式の取得による支出	93	319
リース債務の返済による支出	113,943	144,104
配当金の支払額	20,722	24,479
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>756,707</b>	<b>483,966</b>
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	323,497	348,960
現金及び現金同等物の期首残高	1,141,745	1,465,242
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,465,242	1 1,814,202

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

子会社は、全て連結しております。

連結子会社の数 10社

連結子会社の名称

有限会社ヤマウ・アサヒ

株式会社ヤマウトラスト

九コン販売株式会社

メック株式会社

クリエイティブ・モールド株式会社

光洋システム機器株式会社

大分フジ株式会社

宮崎プレコン株式会社

開成工業株式会社

株式会社リペアエンジ

株式会社リペアエンジは平成25年12月2日付で新規設立したことに伴い、連結の範囲に含めております。

2 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1)重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

a満期保有目的の債券

...償却原価法(定額法)

bその他有価証券

時価のあるもの

...決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

...移動平均法による原価法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

a商品・製品・原材料・仕掛品

...総平均法

b貯蔵品

...最終仕入原価法

デリバティブ

時価法

(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産除く)

定率法

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物

7年～50年

機械装置

12年

無形固定資産(リース資産除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

長期前払費用

定額法

(3)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、次の方法により計上しております。

a一般債権

貸倒実績率によっております。

b貸倒懸念債権及び破産更生債権

個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

当社及び一部の連結子会社において、役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、ポイント基準によっております。

#### 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

#### 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

#### (5)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資であります。

#### (6)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

##### 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

#### (会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、当連結会計年度末より適用し（ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。）、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債（又は資産）として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を退職給付に係る負債（又は資産）に計上いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が230,159千円、退職給付に係る資産が26,756千円、それぞれ計上されております。また、その他の包括利益累計額が101,761千円増加しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

#### (未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

#### (1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものであります。

#### (2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定であります。

#### (3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。



(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

(1)担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
建物及び構築物	549,551千円	520,225千円
機械装置及び運搬具	15千円	0千円
土地	1,661,683千円	1,605,361千円
投資有価証券	132,055千円	152,374千円
計	2,343,305千円	2,277,962千円

(2)対応する債務の内容

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	4,105,276千円	3,749,844千円
長期借入金	107,980千円	131,734千円
計	4,213,256千円	3,881,578千円

2 債務保証

従業員の金融機関からの借入金に対し保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
	18,153千円	12,415千円

3 手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
受取手形割引高	1,103,069千円	1,055,329千円
受取手形裏書譲渡高	84,602千円	70,856千円

4 期末日満期手形の処理

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
受取手形	32,537千円	千円
支払手形	76,009千円	千円

(連結損益計算書関係)

1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上原価	13,404千円	41,224千円

2 販売費及び一般管理費の主なもの

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
運賃	685,300千円	947,029千円
貸倒引当金繰入額	16,747千円	千円
給料	1,335,580千円	1,300,080千円
賞与引当金繰入額	91,391千円	79,613千円
役員退職慰労引当金繰入額	26,224千円	30,577千円
退職給付費用	71,312千円	47,458千円
賃借料	203,539千円	204,687千円
のれん償却額	8,521千円	千円

3 一般管理費に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	37,591千円	54,755千円

4 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
機械装置及び運搬具	956千円	664千円
合計	956千円	664千円

5 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物及び構築物	2,653千円	2,574千円
機械装置及び運搬具	3,338千円	5,204千円
その他(有形)	31,777千円	49,721千円
その他(無形)	千円	127千円
合計	37,768千円	57,627千円

## 6 減損損失

当連結事業年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類
R E C工場 宮崎県児湯郡川南町	レジンコンクリート製品製造設備	建物、構築物、機械及び装置、工具器具及び備品、土地等
福岡工場 福岡県久留米市	水門・堰等製造設備	建物、構築物、機械及び装置、工具器具及び備品、土地等

### (経緯)

営業活動から生じる損益が連続してマイナスである上記レジンコンクリート製品製造設備（R E C工場）資産グループ及び遊休状態にあり今後の使用用途が立っていない水門・堰等製造設備（福岡工場）資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

### (減損損失の金額)

資産の種類	金額
建物	36,394千円
構築物	4,686千円
機械及び装置	19,296千円
車両及び運搬具	1,493千円
工具、器具及び備品	4,790千円
土地	56,322千円
リース資産	3,329千円
合計	126,313千円

### (グルーピングの方法)

製品製造設備については各工場を、遊休資産についてはそれぞれ個別の資産を独立したキャッシュ・フローを生み出す単位としてグルーピングしております。

### (回収可能性価額の算定方法等)

回収可能価額は正味売却価額により測定しており、不動産鑑定評価額を基に評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	45,555千円	21,649千円
組替調整額	1,112千円	千円
税効果調整前	44,443千円	21,649千円
税効果額	10,791千円	5,669千円
その他有価証券評価差額金	33,651千円	15,979千円
その他の包括利益合計	33,651千円	15,979千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	5,506,000			5,506,000
第1回優先株式(株)	2,000,000			2,000,000
合計(株)	7,506,000			7,506,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,002,861	691		1,003,552

(変更事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取による増加 691株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	9,006	2.000	平成24年3月31日	平成24年6月29日
平成24年6月28日 定時株主総会	第1回 優先株式	11,646	5.823	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	13,507	3.000	平成25年3月31日	平成25年6月28日
平成25年6月27日 定時株主総会	第1回 優先株式	利益剰余金	11,094	5.547	平成25年3月31日	平成25年6月28日

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	5,506,000			5,506,000
第1回優先株式(株)	2,000,000			2,000,000
合計(株)	7,506,000			7,506,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,003,552	895		1,004,447

(変更事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取による増加 895株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	13,507	3.000	平成25年3月31日	平成25年6月28日
平成25年6月27日 定時株主総会	第1回 優先株式	11,094	5.547	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	27,009	6.000	平成26年3月31日	平成26年6月30日
平成26年6月27日 定時株主総会	第1回 優先株式	利益剰余金	10,830	5.415	平成26年3月31日	平成26年6月30日

(注) 1株当たり配当額には特別配当3円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金勘定	1,727,882千円	2,059,363千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	262,640千円	245,160千円
現金及び現金同等物	1,465,242千円	1,814,202千円

2 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額	154,820千円	265,270千円

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額  
前連結会計年度(平成25年3月31日)

	機械装置 及び運搬具	その他 (工具、器具 及び備品)	無形固定資産 (ソフトウェア)	合計
取得価額相当額(千円)	4,985			4,985
減価償却累計額相当額(千円)	4,915			4,915
減損損失累計額相当額(千円)				
期末残高相当額(千円)	69			69

当連結会計年度(平成26年3月31日)

該当事項はありません。

(2)未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定期末残高

未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年内	85千円	千円
1年超	千円	千円
合計	85千円	千円

リース資産減損勘定期末残高

該当事項はありません。

(3)支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
支払リース料	6,986千円	85千円
リース資産減損勘定の取崩額	千円	千円
減価償却費相当額	5,485千円	千円
支払利息相当額	183千円	0千円
減損損失	千円	千円



(4)減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

- ・減価償却費相当額の算定方法  
...リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
- ・利息相当額の算定方法  
...リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

- ・有形固定資産  
主として、コンクリート製品製造・販売事業における生産設備（機械装置及び運搬具並びに工具、器具及び備品）であります。
- ・無形固定資産  
主として、コンクリート製品製造・販売事業における販売管理用ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については銀行等金融機関からの借入による方針であります。

また、デリバティブ取引は借入金等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、各取引先の信用状況を取引発生の都度把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金並びに未払金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であります。

営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

デリバティブ取引は金利スワップ取引を実施しております。デリバティブ取引については、担当部門が稟議申請を行い、決裁担当者の承認を得て行っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

また、注記事項(デリバティブ取引関係)におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）参照）。

前連結会計年度（平成25年3月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,727,882	1,727,882	
(2) 受取手形及び売掛金	5,438,139	5,438,139	
(3) 有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券	799	799	
その他有価証券	261,173	261,173	
資産計	7,427,996	7,427,996	
(1) 支払手形及び買掛金	4,129,736	4,129,736	
(2) 未払金	728,173	728,173	
(3) 短期借入金	3,825,600	3,825,600	
負債計	8,683,509	8,683,509	
デリバティブ取引	(704)	(704)	

デリバティブ取引について生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,059,363	2,059,363	
(2) 受取手形及び売掛金	7,981,763	7,981,763	
(3) 有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券			
その他有価証券	279,323	279,323	
資産計	10,320,449	10,320,449	
(1) 支払手形及び買掛金	5,858,771	5,858,771	
(2) 未払金	960,213	960,213	
(3) 短期借入金	3,843,431	3,843,431	
負債計	10,662,415	10,662,415	
デリバティブ取引	(251)	(251)	

デリバティブ取引について生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

（注1） 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格または取引金融機関等から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金(2)未払金、並びに(3)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項(デリバティブ取引関係)をご参照下さい。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	平成25年3月31日	平成26年3月31日
非上場株式	17,968	17,500

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,684,592			
受取手形及び売掛金	5,438,139			
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券(社債)	800			
その他有価証券のうち満期があるもの(社債)	5,995			
合計	7,129,528			

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,982,240			
受取手形及び売掛金	7,981,763			
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券(社債)				
その他有価証券のうち満期があるもの(社債)				
合計	9,964,003			

(注4) 借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	3,825,600					

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	3,843,431					

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの			
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	799	799	
合計	799	799	

当連結会計年度(平成26年3月31日)

該当事項はありません。

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの			
株式	204,422	129,707	74,715
債券	5,995	5,097	898
その他	10,492	10,000	492
小計	220,910	144,804	76,106
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの			
株式	33,379	41,909	8,530
債券			
その他	6,883	8,060	1,176
小計	40,263	49,969	9,706
合計	261,173	194,774	66,399

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額17,968千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの			
株式	229,495	129,093	100,402
債券			
その他	3,668	3,108	559
小計	233,163	132,201	100,962
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの			
株式	32,758	44,486	11,727
債券			
その他	13,400	14,586	1,186
小計	46,159	59,072	12,913
合計	279,323	191,274	88,048

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額17,500千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	1,000	531	
債券			
その他			

4 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について1,112千円減損処理を行っております。

当連結会計年度において、該当事項はありません。

なお、時価のある有価証券の減損処理にあたっては、期末日における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合は、時価の回復可能性がないものとして一律に減損処理を行い、下落率が30%以上50%未満の場合には、時価の回復可能性を判断し減損処理の要否を決定しております。



(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超(千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の取引	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	100,000		704	704
合計		100,000		704	704

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超(千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の取引	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	100,000		251	251
合計		100,000		251	251

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(平成25年3月31日)及び当連結会計年度(平成26年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社の一部は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度を設けております。又、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

また、連結子会社(有)ヤマウ・アサヒ、(株)ヤマウトラスト、九コン販売(株)、大分フジ(株)は、中小企業退職金共済制度に加入しております。

2 退職給付債務に関する事項

(1)退職給付債務	1,490,751千円
(2)年金資産	1,115,697千円
(3)未積立退職給付債務((1)+(2))	375,054千円
(4)未認識数理計算上の差異	117,144千円
(5)未認識過去勤務債務	47,809千円
(6)連結貸借対照表計上額純額((3)+(4)+(5))	444,389千円
(7)退職給付引当金	444,389千円

(注) 退職給付制度を採用している一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、退職一時金制度に係る期末自己都合要支給額、確定給付企業年金制度に係る責任準備金を退職給付債務とする簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

(1)勤務費用	83,497千円
(2)利息費用	14,100千円
(3)期待運用収益	7,864千円
(4)数理計算上の差異の費用処理額	5,366千円
(5)過去勤務債務の費用処理額	9,561千円
(6)退職給付費用((1)+(2)+(3)+(4)+(5))	93,929千円

連結子会社(有)ヤマウ・アサヒ、(株)ヤマウトラスト、九コン販売(株)、大分フジ(株)は、従業員退職金について中小企業退職金共済制度に加入しております。掛金の支払額は16,823千円です。

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「(1)勤務費用」に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1)退職給付見込額の期間配分方法

ポイント基準

(2)割引率

1.5%

(3)期待運用収益率

1.5%

(4)過去勤務債務の額の処理年数

10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法)

(5) 数理計算上の差異の処理年数

10年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生  
の翌連結会計年度から費用処理する方法)

又、一部連結子会社につきましては簡便法を採用しているため、基礎率等については記載しておりません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。確定給付企業年金制度(すべて積立型制度であります。)では、勤務期間等に基づいた一時金又は年金を支給しております。

なお、一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

退職給付債務の期首残高	957,391	千円
勤務費用	57,363	"
利息費用	14,360	"
数理計算上の差異の発生額	31,330	"
退職給付の支払額	61,348	"
退職給付債務の期末残高	936,437	"

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

年金資産の期首残高	626,175	千円
期待運用収益	9,392	"
数理計算上の差異の発生額	62,180	"
事業主からの拠出額	95,225	"
退職給付の支払額	61,348	"
年金資産の期末残高	731,625	"

## (3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	43,837	千円
退職給付費用	17,171	"
退職給付の支払額	9,752	"
制度への拠出額	52,665	"
退職給付に係る負債と資産の純額	1,408	"
退職給付に係る負債の期末残高	25,347	"
退職給付に係る資産の期末残高	26,756	"

## (4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	1,594,412	千円
年金資産	1,407,037	"
	187,375	"
非積立型制度の退職給付債務	16,028	"
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	203,403	"
退職給付に係る負債	230,159	"
退職給付に係る資産	26,756	"
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	203,403	"

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	57,363	千円
利息費用	14,360	"
期待運用収益	9,392	"
数理計算上の差異の費用処理額	14,882	"
過去勤務費用の費用処理額	9,561	"
簡便法で計算した退職給付費用	17,171	"
確定給付制度に係る退職給付費用	74,183	"

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識過去勤務費用	38,247	千円
未認識数理計算上の差異	195,773	"
合計	157,525	"

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

株式	35.7%
債券	30.1%
一般勘定	23.8%
その他	10.4%
合計	100.0%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表している。）

割引率	1.5%
長期期待運用収益率	1.5%

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
(繰延税金資産)		
貸倒引当金	74,129千円	49,378千円
退職給付引当金	157,430千円	千円
退職給付に係る負債	千円	137,240千円
役員退職慰労引当金	54,257千円	64,893千円
賞与引当金	71,183千円	60,683千円
減損損失等減価償却費	104,554千円	127,961千円
土地等減損損失	50,235千円	55,212千円
機械装置等除却損	37,299千円	35,365千円
たな卸資産評価損	11,980千円	43,700千円
税務上の繰越欠損金	120,240千円	31,722千円
その他	63,520千円	98,446千円
繰延税金資産小計	744,833千円	704,604千円
評価性引当額	744,833千円	608,219千円
繰延税金資産合計	千円	96,385千円
(繰延税金負債)		
貸倒引当金調整(債権債務の調整)	2,313千円	1,769千円
その他有価証券評価差額金	19,760千円	25,430千円
特別償却準備金	2,403千円	1,532千円
退職給付に係る資産	千円	9,846千円
退職給付に係る調整累計額	千円	55,764千円
その他	11千円	11千円
繰延税金負債合計	24,487千円	94,353千円
繰延税金資産の純額	24,487千円	2,032千円

(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
流動資産 繰延税金資産	千円	96,385千円
流動負債 その他	2,282千円	1,754千円
固定負債 繰延税金負債	22,204千円	92,598千円

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	37.80%	37.80%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.05%	1.80%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.13%	0.06%
住民税均等割	4.68%	1.50%
税率変更による影響	%	0.00%
評価性引当額	27.09%	11.14%
負ののれん発生益	5.48%	%
その他	0.95%	1.83%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	15.78%	31.73%

### 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について、前連結会計年度の37.80%から35.40%に変更されております。

なお、税率変更による影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「コンクリート製品製造・販売事業」、「水門・堰の製造及び施工並びに保守事業」、「情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業」及び「コンクリート構造物の点検・調査事業」の4つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「コンクリート製品製造・販売事業」は、土木製品（カルバート類、側溝類等）、景観製品（舗装材、ストリートファニチャー等）及びレジンコンクリート製品（YRG集水蓋、カーストップ等）の製造販売を行っており、「水門・堰の製造及び施工並びに保守事業」は主に、水門、除塵機、水管橋等鋼構造物の製造、施工並びにそれらの保守を行っており、「情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業」は、主に金融機関向け業務処理支援機器、貨幣処理機及びその周辺機器の販売並びにそれらの保守、LED照明の販売を行っており、「コンクリート構造物の点検・調査事業」は、主に橋梁、トンネル等コンクリート構造物の点検・調査請負、補修・補強設計業務の請負を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」と同一であります。

又、報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であり、セグメント間の内部売上高及び内部振替高等は市場実勢価格に基づいております。



3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	コンクリート製品製造・販売事業	水門・堰の製造及び施工並びに保守事業	情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業	コンクリート構造物の点検・調査事業	調整額 (注)1	連結財務諸表計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	13,498,699	2,897,263	320,013	207,665		16,923,641
セグメント間の内部売上高又は振替高	102	6,750	512		7,365	
計	13,498,801	2,904,013	320,526	207,665	7,365	16,923,641
セグメント利益	288,852	64,716	2,270	10,461	214	366,515
セグメント資産	8,959,018	2,957,779	609,524	123,234	666,235	13,315,793
その他の項目						
減価償却費	348,746	25,725	3,778	1,271		379,522
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	533,348	16,988	2,317	601		553,256

(注)1．調整額は、以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額666,235千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産674,550千円及びセグメント間取引消去 8,314千円であります。全社資産は、主に、親会社での余資運用資金（現金及び預金、有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）であります。

2．セグメント利益は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	コンクリート製品製造・販売事業	水門・堰の製造及び施工並びに保守事業	情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業	コンクリート構造物の点検・調査事業	調整額 (注)1	連結財務諸表計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	17,754,297	4,575,187	341,168	262,298		22,932,951
セグメント間の内部売上高又は振替高	33	8,538	562		9,133	
計	17,754,330	4,583,725	341,730	262,298	9,133	22,932,951
セグメント利益	801,700	591,684	7,056	36,036	460	1,436,938
セグメント資産	10,817,936	4,207,809	587,445	194,164	841,385	16,648,742
その他の項目						
減価償却費	402,851	23,035	4,648	739	-	431,274
減損損失	50,065	76,248				126,313
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	772,882	26,442	4,234	592		804,151

(注)1. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額841,385千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産843,004千円及びセグメント間取引消去 1,619千円であります。全社資産は、主に、親会社での余資運用資金(現金及び預金、有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)であります。

2. セグメント利益は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 平成25年12月2日付で株式会社リペアエンジを新規設立したことに伴い、当連結会計年度よりコンクリート構造物の点検・調査事業に株式会社リペアエンジを含めております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	コンクリート製品製造・販売事業	水門・堰の製造及び施工並びに保守事業	情報機器の販売並びに環境関連商品の販売事業	コンクリート構造物の点検・調査事業	合計	調整額	連結財務諸表計上額
当期償却額			8,521		8,521		8,521
当期末残高							

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

「水門・堰の製造及び施工並びに保守事業」セグメントにおいて、平成24年4月2日付けで開成工業株式会社の発行済株式全株を取得し連結子会社としたことに伴い、当連結会計年度において、58,539千円の負ののれん発生益を計上しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）及び当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	389.58円	600.50円
1株当たり当期純利益金額	71.49円	187.74円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	39.16円	100.69円

- (注) 1. 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱に従っております。この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産が、22.60円増加しております。
2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	332,984	856,053
普通株主に帰属しない金額 (千円)	11,094	10,830
(うち第1回優先株式配当)	(11,094)	(10,830)
普通株式に係る当期純利益 (千円)	321,890	845,223
普通株式の期中平均株式数 (株)	4,502,748	4,502,197
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)	11,094	10,830
普通株式増加数(株)	4,000,000	4,000,000
(うち第1回優先株式)	(4,000,000)	(4,000,000)
希薄化効果を有しないため、潜在 株式調整後1株当たり当期純利益 の算定に含まれなかった潜在株式 の概要		

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	2,403,653	3,381,605
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	649,608	678,422
(うち少数株主持分)	(38,514)	(67,592)
(うち第1回優先株式払込金額)	(600,000)	(600,000)
(うち第1回優先株式配当)	(11,094)	(10,830)
普通株式に係る期末の純資産額 (千円)	1,754,044	2,703,182
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	4,502,448	4,501,553

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
開成工業(株)	第3回 無担保社債	平成21年 9月10日	30,000	10,000 (10,000)	0.95	無担保社債	平成26年 9月10日

(注) 1. 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
10,000				

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	3,825,600	3,843,431	1.597	
1年以内に返済予定の長期借入金	402,892	69,460	2.393	
1年以内に返済予定のリース債務	113,648	142,740	2.069	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	117,380	137,918	2.159	平成27年4月1日～ 平成30年9月28日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	169,324	261,399	2.069	平成27年4月1日～ 平成33年9月20日
その他有利子負債				
合計	4,628,845	4,454,948		

(注) 1 「平均利率」については、期末借入金等残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	51,140	38,092	35,124	13,562
リース債務	117,658	86,542	38,566	10,081

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。



(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	3,481,858	7,597,465	13,145,309	22,932,951
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額 (千円)	53,488	8,121	407,406	1,296,592
四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額 (千円)	62,963	12,477	288,342	856,053
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (円)	13.98	2.77	64.04	187.74

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (円)	13.98	11.21	66.81	126.10

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	453,312	601,315
受取手形	1、4、5 1,639,897	1、4 2,471,492
売掛金	1 2,126,744	1 2,625,713
有価証券	799	-
商品及び製品	1,162,096	1,265,729
仕掛品	59,759	71,758
原材料及び貯蔵品	112,159	110,988
前払費用	19,542	19,072
繰延税金資産	-	54,723
未収入金	1 25,153	1 27,810
その他	1 48,859	1 26,183
貸倒引当金	84,582	69,329
<b>流動資産合計</b>	<b>5,563,742</b>	<b>7,205,456</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	2 509,780	2 524,252
構築物	2 156,794	2 183,728
機械及び装置	2 451,867	2 474,825
車両運搬具	5,830	12,308
工具、器具及び備品	73,396	73,485
土地	2 1,155,504	2 1,143,986
リース資産	267,827	348,191
建設仮勘定	2,044	20,452
<b>有形固定資産合計</b>	<b>2,623,046</b>	<b>2,781,231</b>
<b>無形固定資産</b>		
電話加入権	11,425	11,425
ソフトウェア	4,606	141,446
その他	98,269	7,795
<b>無形固定資産合計</b>	<b>114,301</b>	<b>160,666</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2 220,437	2 241,689
関係会社株式	263,860	293,860
差入保証金	31,375	28,920
破産更生債権等	130,682	63,013
その他	1 62,622	1 62,287
貸倒引当金	138,805	71,113
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>570,172</b>	<b>618,658</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>3,307,520</b>	<b>3,560,556</b>
<b>資産合計</b>	<b>8,871,262</b>	<b>10,766,013</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	1, 5 1,738,925	1 2,696,394
買掛金	1 793,034	1 978,231
短期借入金	2 2,607,600	2 2,302,604
リース債務	112,240	136,418
未払金	1 509,521	1 639,101
未払法人税等	49,288	201,367
未払消費税等	16,707	43,068
預り金	5,780	52,216
賞与引当金	77,244	61,613
設備関係支払手形	30,207	69,920
その他	18,142	100,226
流動負債合計	5,958,690	7,281,163
<b>固定負債</b>		
長期借入金	2 10,000	2 69,994
リース債務	168,012	226,662
繰延税金負債	22,129	26,962
退職給付引当金	413,743	367,337
役員退職慰労引当金	119,796	140,116
資産除去債務	22,976	21,935
その他	9,460	12,050
固定負債合計	766,118	865,058
負債合計	6,724,808	8,146,222
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	800,000	800,000
資本剰余金		
資本準備金	300,000	300,000
資本剰余金合計	300,000	300,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
特別償却準備金	4,091	2,797
繰越利益剰余金	1,011,745	1,467,546
利益剰余金合計	1,015,837	1,470,343
自己株式	11,903	12,223
株主資本合計	2,103,933	2,558,120
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	42,519	61,670
評価・換算差額等合計	42,519	61,670
純資産合計	2,146,453	2,619,791
負債純資産合計	8,871,262	10,766,013

## 【損益計算書】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
売上高	1 11,846,609	1 15,838,826
売上原価	1 9,033,139	1 12,076,701
売上総利益	2,813,470	3,762,124
販売費及び一般管理費	2 2,595,518	2 3,101,160
営業利益	217,952	660,964
営業外収益		
受取利息及び配当金	1 9,412	1 8,992
保険配当金	2,407	1,386
業務受託料	23,155	26,390
鉄屑処分収入	22,318	25,697
その他	1 72,923	1 87,866
営業外収益合計	130,217	150,333
営業外費用		
支払利息	56,633	53,708
その他	27,968	29,860
営業外費用合計	84,602	83,569
経常利益	263,567	727,728
特別利益		
投資有価証券売却益	-	531
特別利益合計	-	531
特別損失		
固定資産除却損	37,117	53,218
減損損失	-	50,065
特別損失合計	37,117	103,283
税引前当期純利益	226,449	624,977
法人税、住民税及び事業税	36,264	201,462
法人税等調整額	818	55,593
法人税等合計	35,445	145,869
当期純利益	191,003	479,107

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
				特別償却準備金	繰越利益剰余金	
当期首残高	800,000	300,000	300,000	5,438	840,047	845,485
当期変動額						
剰余金の配当					20,652	20,652
特別償却準備金の取崩				1,346	1,346	
当期純利益					191,003	191,003
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計				1,346	171,698	170,351
当期末残高	800,000	300,000	300,000	4,091	1,011,745	1,015,837

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	11,809	1,933,676	17,310	17,310	1,950,986
当期変動額					
剰余金の配当		20,652			20,652
特別償却準備金の取崩					
当期純利益		191,003			191,003
自己株式の取得	93	93			93
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			25,209	25,209	25,209
当期変動額合計	93	170,257	25,209	25,209	195,466
当期末残高	11,903	2,103,933	42,519	42,519	2,146,453

当事業年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
			特別償却準備金	繰越利益剰余金		
当期首残高	800,000	300,000	300,000	4,091	1,011,745	1,015,837
当期変動額						
剰余金の配当					24,601	24,601
特別償却準備金の取崩				1,294	1,294	
当期純利益					479,107	479,107
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計				1,294	455,801	454,506
当期末残高	800,000	300,000	300,000	2,797	1,467,546	1,470,343

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	11,903	2,103,933	42,519	42,519	2,146,453
当期変動額					
剰余金の配当		24,601			24,601
特別償却準備金の取崩					
当期純利益		479,107			479,107
自己株式の取得	319	319			319
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			19,150	19,150	19,150
当期変動額合計	319	454,186	19,150	19,150	473,337
当期末残高	12,223	2,558,120	61,670	61,670	2,619,791

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

満期保有目的の債券

.....償却原価法(定額法)

子会社株式

.....移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

.....決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

.....移動平均法による原価法

(2) デリバティブ

時価法

(3) たな卸資産

商品・製品・原材料・仕掛品

.....総平均法による原価法

(貸借対照表評価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品最終仕入原価法

.....最終仕入原価法による原価法

(貸借対照表評価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産除く)

定率法

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物

7年～50年

機械及び装置

12年

(2) 無形固定資産(リース資産除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、次の方法により計上しております。

一般債権

貸倒実績率によっております。

貸倒懸念債権及び破産更生債権

個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生している額を計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりであります。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、ポイント基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

#### (4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

### 4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

#### (2) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。



(表示方法の変更)

(単体簡素化に伴う財務諸表等規則第127条の適用および注記の免除等に係る表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条に定める減価償却累計額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第75条第2項に定める製造原価明細書については、同ただし書きにより、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第80条に定めるたな卸資産の帳簿価額の切り下げに関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の3の2に定める減損損失に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

前事業年度において、無形固定資産の「その他」に含めて表示しておりました「ソフトウェア」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より区分掲記しております。

なお、前事業年度の「ソフトウェア」は4,606千円であります。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期金銭債権	607,627千円	697,286千円
長期金銭債権	7,749千円	3,753千円
短期金銭債務	200,419千円	320,243千円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
建物	397,770千円	411,002千円
構築物	283千円	262千円
機械及び装置	15千円	0千円
土地	1,089,325千円	1,074,664千円
投資有価証券	132,055千円	152,374千円
計	1,619,450千円	1,638,303千円

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	2,607,600千円	2,302,604千円
長期借入金	10,000千円	69,994千円
計	2,617,600千円	2,372,598千円

3 債務保証

従業員の金融機関からの借入金に対し保証を行っております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
	17,607千円	12,277千円

4 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形割引高	987,079千円	1,054,282千円
受取手形裏書譲渡高	37,239千円	43,290千円

5 期末日満期手形の処理

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形	23,954千円	千円
支払手形	5,796千円	千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	1,164,262千円	1,414,902千円
仕入高	1,891,498千円	2,674,159千円
営業取引以外の取引高	24,391千円	27,378千円

2 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
運賃	613,132千円	857,870千円
給料	866,848千円	830,836千円
賞与引当金繰入額	59,022千円	44,745千円
役員退職慰労引当金繰入額	17,689千円	20,320千円
減価償却費	32,634千円	43,056千円
退職給付費用	62,941千円	42,542千円

おおよその割合

販売費	66%	68%
一般管理費	34%	32%

(有価証券関係)

関係会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は293,860千円、前事業年度の貸借対照表計上額は263,860千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
(繰延税金資産)		
貸倒引当金	62,254千円	39,306千円
退職給付引当金	146,465千円	130,037千円
役員退職慰労引当金	42,407千円	49,601千円
賞与引当金	29,198千円	21,811千円
減損損失等減価償却費	97,770千円	101,012千円
土地等減損損失	47,795千円	52,771千円
機械装置等除却損	37,299千円	35,365千円
たな卸資産評価損	11,980千円	24,326千円
税務上の繰越欠損金	67,734千円	千円
その他	55,602千円	76,964千円
繰延税金資産小計	598,508千円	531,197千円
評価性引当額	598,508千円	476,474千円
繰延税金資産合計	千円	54,723千円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	19,726千円	25,430千円
特別償却準備金	2,403千円	1,532千円
繰延税金負債合計	22,129千円	26,962千円
繰延税金資産の純額	22,129千円	27,760千円

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	37.80%	37.80%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	7.97%	2.37%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.23%	0.11%
住民税均等割等	6.63%	2.49%
税率変更による影響	%	0.01%
評価性引当額	37.02%	19.69%
その他	0.50%	0.49%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	15.65%	23.34%

## 3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の37.80%から35.40%に変更されております。

なお、税率変更による影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	当期償却額	期末帳簿価額	減価償却累計額	期末取得原価
有形固定資産							
建物	509,780	1 69,924	7 9,719 (8,579)	45,733	524,252	1,513,632	2,037,885
構築物	156,794	2 57,915	7 5,235 (3,801)	25,746	183,728	265,177	448,905
機械及び装置	451,867	3 143,945	7 21,801 (16,597)	99,185	474,825	1,126,901	1,601,727
車両運搬具	5,830	14,926	7 1,493 (1,493)	6,955	12,308	12,785	25,094
工具、器具及び備品	73,396	4 120,545	7 46,914 (1,602)	73,541	73,485	184,911	258,396
土地	1,155,504	3,143	7 14,661 (14,661)		1,143,986		1,143,986
リース資産	267,827	5 221,170	7 3,329 (3,329)	137,476	348,191	282,317	630,509
建設仮勘定	2,044	127,679	109,272		20,452		20,452
有形固定資産計	2,623,046	759,252	7 212,428 (50,065)	388,639	2,781,231	3,385,726	6,166,957
無形固定資産							
電話加入権	11,425				11,425		
ソフトウェア	4,606	6 155,179	127	18,211	141,446	21,650	163,096
その他	98,269	81,576	171,000	1,050	7,795		
無形固定資産計	114,301	236,755	171,127	19,261	160,666	21,650	163,096

1 建物の当期増加額の主な内容は、次のとおりであります。

佐賀工場	F棟屋根・壁	16,000千円
北九州工場	型枠倉庫	11,700千円

2 構築物の当期増加額の主な内容は、次のとおりであります。

佐賀工場	C V - 10基礎	9,689千円
高崎工場	防音設備工事	7,964千円
北九州工場	テント倉庫基礎	7,269千円

3 機械装置の当期増加額の主な内容は、次のとおりであります。

佐賀工場	製造設備	35,103千円
鹿児島工場	製造設備	10,650千円
大分工場	製造設備	7,142千円

4 工具型枠の当期増加額の主な内容は、次のとおりであります。

佐賀工場	型枠	32,495千円
鹿児島工場	型枠	25,933千円
福岡工場	型枠	12,362千円
高崎工場	型枠	10,190千円

5 リース資産の当期増加額の主な内容は、次のとおりであります。

佐賀工場	製造設備	53,902千円
鹿児島工場	製造設備	47,353千円
高崎工場	製造設備	43,151千円

6 ソフトウェアの当期増加額の主な内容は、次のとおりであります。

情報システム	基幹システム	150,000千円
--------	--------	-----------

7 「当期減少額」欄の( )内は内書きで減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
貸倒引当金	223,387	140,442	58,189	165,198	140,442
賞与引当金	77,244	61,613	77,244		61,613
役員退職慰労引当金	119,796	20,320			140,116

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、洗替えによる戻入額等であります。



(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	日本経済新聞
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、以下に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- 募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度 第56期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)平成25年6月28日福岡財務支局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書

事業年度 第56期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)平成25年6月28日福岡財務支局長に提出。

#### (3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第57期第1四半期(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日) 平成25年8月9日福岡財務支局長に提出。

第57期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日) 平成25年11月13日福岡財務支局長に提出。

第57期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日) 平成26年2月13日福岡財務支局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年6月27日

株式会社ヤマウ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 東 能 利 生

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 矢 野 真 紀

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヤマウの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ヤマウ及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ヤマウの平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社ヤマウが平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成26年6月27日

株式会社ヤマウ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 東 能 利 生

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 矢 野 真 紀

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヤマウの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第57期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ヤマウの平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。